



增補 改正
公用文例
卷 菱潭 編書
頭書諸規則
全

73
6853



73
卷

卷菱潭先生編并書



改正
增補

公
例

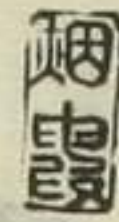


頭書諸規則

明治十二年
九月再刻

荒川藤兵衛藏版

可 詰 語



公道
則大
明

可 詰 語

平之景象

姜厚



改正增補公用文例目次

一	送籍願	二	縁組送籍願
三	縁組願	四	婚妯届
五	養男女願	六	離縁届
七	轉宅届	八	寄留送籍願
九	寄留延期届	十	寄留同居人届
十一	寄留替届	十二	寄留証返戻願
十三	止宿人届	十四	別戸願
十五	他國出稼願	十五	歸宅届
十七	入學願	十六	歸省願

九 出生届

十 病氣届

二 容體書

三 死去届

三 忌引届

四 全別紙書式

五 家督相續願

其 隱居願 七 其一例

六 出頭請書

九 拜命請書

十 雇人届

二 外國人雇届

三 講習願

三 棄子届

四 遺失届

五 紛失届

六 拾品届

七 盜難届

六 改名届

九 改印届

甲 家出届

四 全 歸宅届

三 地券名前書改願

三 巡查志願書

四 全 保証状

五 土置場足代願

六 會社設建願

甲 醫師藥舖開業願

四 諸營業鑑札願

九 渡世廢業願

辛 荷車檢印願

五 馬車人力車檢印願

五 鐵炮檢印願

三 旅人宿營業願

五 料理稼營業願

五 漁船檢印願

六 官有地拜借願

五 貿易品賣込届

五 全 買取届

九 學費金献納願

卒 女工場設立願

六一 發明器械專賣願

三 博覽所設立願

六三 諸技術戲場興行願

六四 瓦斯燈設建願

六五 河流溝渠浚疏願

六 開墾地拂下願

六七 地所開墾願

六 荒地檢査願

六九 堤防修復願

七 河筋瀨替願

七一 橋梁架替願

七 樹木立枯拂下願

七三 田畑賣買地券願

七 孝養者届

七五 洋行願

七 諸帳簿證印願

七七 出帆願

六 積荷目錄

七九 入港願

八 造船局入社願

八一 教導團入學願

八 家私塾開業願

八三 公債証書讓賣渡裏書

八 全書替願 全一例

八六 借家取建願

八 トラフ建設願

八八 損札引替願

九 湯治願

九 病後步行届

九 出勤届

九二 辞職願

九 藝伎鑑札願

九四 頓死届

九 變死届

九六 引渡人請書

九 引渡人請書

九八 差入物願

九 貯金預り願

百 上中書

頭書諸規則目次

- 祭祀日休暇表并國旗掲出日表
- 通常禮服着用日
- 忌服令式
- 大坂ヨリ各港へ航海里程
- 改姓名也閏届箇條
- 結婚手續
- 後見人總則
- 電信條例
- 海關輸出史荷物取扱條例
- 度量衡改定條例
- 動産不動産書貸借規則
- 大禮服着用日
- 五等親區別
- 内國各港海上里程
- 郡區町村編制法
- 幼年丁年ノ別
- 離婚總則
- 營業稅雜種稅制限
- 厩造貨幣取扱規則
- 廻漕貨物取扱條例
- 貸附金穀取立法則
- 違式註違條例

大尾

頭書諸規則

- 祭祀日休暇表
- 并御國旗掲日表
- 元始祭
- 新年宴會
- 孝明天皇祭
- 紀元節
- 神武天皇祭
- 神嘗祭

改正 增補 公用文例

卷 兼 澤 編 書

一 送籍額

何區 何町 何番地

族 平民

何誰

今般為何事業何

天長節

新嘗祭

春季皇靈祭

秋季皇靈祭

○大禮服着用日

新年朝拜

元始祭

新年宴會

伊勢兩宮例祭

紀元節

神武天皇例祭

孝明天皇例祭

天長節

外國公使參朝ノ

節

○通常禮服着用

日

參賀

府管下何國何郡何

村何番地轉任候付

而者送籍書以後

度此取奉願也

年号月日

何誰印

區郡長何某殿

②縁組送籍願

何府何區何村何番地
族平民何誰女

何年何月幾日生

右者此度府管下何郡

禮服御用召

叙任御禮

○五等親區別

一等親

父母 養父母

夫子 養子

二等親

祖父母 嫡母

繼母 伯叔父姑

兄弟 姉妹

夫ノ父母 妻

妾 姪 孫子

ノ婦

三等親

曾祖父母 伯叔

ノ婦 夫ノ姪

從兄弟 姉妹

夫ノ祖父母 夫

何^{ナニ}所^ト何^{ナニ}番地^ト何^{ナニ}渡^ト立^セ

何^{ナニ}誰^{ナニ}方^ニ縁^ヰ組^ミ申^ス合^セ

候^ニ間^ニ送^ル籍^ト被^レ成^ル度^ニ

此^レ段^ニ奉^ル願^ヒ候^也

年号月日

何^{ナニ}誰^{ナニ}印

區^ニ郡^ニ長^ト何^{ナニ}某^{ナニ}殿

③ 縁^ヰ組^ミ願^ヒ

私^ニ長^ト男^ト何^{ナニ}誰^{ナニ}何^{ナニ}何^{ナニ}

族^平民^ニ何^{ナニ}誰^{ナニ}之^ノ長^ニ二^ニ女^ト多^ク也

為^レ要^ト度^ニ今^ニ般^ニ雙^ニ方^ト

伯叔父姑 庶子	姪ノ婦 継父	四等親	高祖父母 從祖	父姑 從祖伯叔	父姑 夫ノ兄弟	妻 再從兄弟姪	妹 外祖父母	舅 姨 前夫ノ	子 兄弟ノ孫	從父兄弟ノ子	外甥 曾孫 孫	婦	五等親	妻ノ父母 姑ノ	子 舅姨ノ子	玄孫 外孫女婚	○忌服令式
---------	--------	-----	---------	---------	---------	---------	--------	---------	--------	--------	---------	---	-----	---------	--------	---------	-------

示談之上 熟議相成

候間此段奉願片也

何府何區何村何番地

年号月日

何誰印

四婚姻届

何府何區何村何番地

族平民何誰幾女

右之者今般私妻之貫

受テ去ル何日引取中ノ旨

此段治届申ノ旨也

何區何村何番地

族平民

父母	養父母	繼父母	離別母	夫父母	嫡母	伯叔父母	同母方	夫	妻	兄弟姊妹	同異父	嫡子	末子	女子	養子	嫡孫	嫡孫
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五十三日	五十三日	五十三日	五十三日	百五十日	三十日	二十日	三十日	五十三日	二十九日	二十九日	三十日	二十日	三十日	三十日	二十日	三十日	三十日
月	月	日	日	日	日	日	日	月	日	日	日	日	日	日	日	日	日

年号月日

何誰

五 養男女願

何府何區何村何番地
原籍
 何縣何郡何村何番地
寄留

族平民何誰

何誰

右誰儀今般私養男女

貫受申度何縣何郡

何村何番地何誰

養男女若遣申度法般

奉願也

嫡子家督ト定メサ レハ末子ニ同シ	伯叔父母 ハ半減ナレ	一嫡母 對面セサルモ ハ忌服ナシ	繼父母同居セサ レハ服忌ナシ	妾 忌服ナシ子アレ ハ遠慮三日	離別祖母 同祖母ニ	同母方 同九十日	祖父母 忌服百五十日	同母方 遠慮一日	曾祖父母 忌服九十日	高祖父母 同三十日	從父兄弟姊妹 同三七日	甥姪 同三七日	玄孫 同三七日	曾孫 同三七日	孫女 同三七日	未孫 同三七日
---------------------	---------------	------------------------	-------------------	-----------------------	--------------	-------------	---------------	-------------	---------------	--------------	----------------	------------	------------	------------	------------	------------

何縣何郡何區何村何番地
何縣士族何誰父

年号月日
何誰印

親類ニ適合
ヲ書ス
何誰印

六 離縁届

私妻ニ生儀何云

有之不如意ニ付親類一

同立會之上証人為相立

更ニ離縁致シテ旨法段

所届申上云也

何區何村何番地
族平民

未子他へ養子ニ遣スモ同シ家督ト定テ六嫡子ト同シ

一遠方ヨリ知ラ

セ来レハ父母ハ

聞キタル日ヨリ

定式ノ忌服ヲ受

ク其余ハ残り日

數ヲ受ク

一小児七歳未滿

ハ忌服ナシ其父

母ハ三日遠慮

一父ノ服忌滿タ

ザル内ニ母ノ服

忌カ、ルキハ母

死去ノ日ヨリ定

式ノ忌服ヲ受ク

一重キ服忌ノ内

輕キ服忌カサナ

ル片ハ重キ服忌

年号月日

何誰印

七轉宅届

私儀今般家業之

便宜テ計リ何區何町

轉任仕度候此段届

申上候也

何區何村何番地

何誰印

年号月日

八寄留送籍願

何府何區何村何番地

何誰

何年月日出生

ニ従フ

一産穢^{サシエ}憚^{ハカ}ルニ及

ハス

一除服^{チヨフク}出仕^{シツケ}宣下

ヲ廢シ忌明ノ後

ハ勝手^{カツテ}ニ出仕セ

シム

一混穢^{キハイ}ノ制廢セ

ラル

一子細ト稱スル

忌服受クベカラ

ス

○内國各港海上

里程但シ後東京至各地

上總富津、十里

同木更津、八里半

安房加知山、十六里

同須崎、十九里半

公用文例

拙者男弟 女妹何誰儀何

付何府 縣何區 郡何町 村何

番地何誰方ムカフ向何年

問寄留為致度ツキ就何

寄留書被渡下ムカフ換

奉願也

年号自口

右父兄 仍誰印

九 寄留延期願

何府 區何郡 町何村 番地
原籍

弟何郡 町何村 番地
寄留

川式義反

下總銚子八五十八里

常陸勝下七十三里半

同那賀七十七里半

同川尻八十六里半

相模横須賀十

二里

同浦賀十四里

同江島二十五里

伊豆下田四十里

駿河清水五十七

里半

同沿津五十九里

遠江御前寄五

十九里

同掛塚六十七里半

三河伊良古崎八

九十一里半

同荻谷百〇二里半

何府士族

何誰

私儀^ル何年何月何

日^ホ本^府於^テ何年何月何

濟^ス之上^ニ前^ニ書^キ之^キ處^ニ寄^キ

留^リ罷^マ在^ル處^ニ本^マ年^カ何^リ

月^ノ何^ノと^シ満^マ限^ケ在^ル處^ニ

得^ル共^ニ何^ノ又^シ本^ノ日^ヨヨリ

向^テ何^ノ年^ノ間^ニ更^ニ寄^リ留^ル

仕^レ度^ニ此^レ段^ニ奉^ル願^ヒ也^{ナリ}

年号月日

何誰印

和泉堺、百八十里

肥前長崎、三百八

十二里半

尾張大野、百〇三

半

同宮百〇九里半

伊勢桑名、百〇七

里

同四日市、百〇六

伊勢津、百里余

志摩鳥羽、九十六

里半

紀伊尾鷲、百十

七里

同新宮百二十三

半

同田邊、百五十

同加太、百六十八

⑩ 寄留同居人届

何府何區何所

族平民

何官

何誰

何年何月何日生

右之者存月何日ヨリ

私方、寄留為致者

此段迄届中、下也

何區何所何番地

年号月

何誰印

⑪ 寄留替名届

何區何所何番地

原籍

攝津大坂百八十二

里半

同神戸百八十二里

磐城今泉百二十里

渡島箱館二百六

十五里半

陸前石巻百三

九里半

陸中金石百五十

七里

同山田百六十七里

同宮古百七十二里半

陸奥大畑二百三十

一里半

同三厩二百五十三

里半

陸奥青森二百六

十五里半

族平民

何官

何誰

何年月日生

右之者是之何區何

町何番地何之誰方何

留之誰方何之誰方何

今歲日有彩方一寄

留之誰方何之誰方何

申上片也

何區何村何番地

何誰印

年号月日

同野邊地二百七
里

渡島松前二百六
二里半

越後新潟三百六
十二里半

○大坂ヨリ各港
一航海里程

和泉堺八三里

同谷川八十二里半

攝津神戸八九里

淡路岩屋八十二里

同志筑八十五里

同明石八十二里

播磨室津八二十五里

讃岐高松八里

同九龜八里

長門下関八百二十

里

同九龜八里

長門下関八百二十

里

⑬ 寄留証返戻願

何府何郡何村何番地

族平民

何誰

年月日

私儀今般原籍歸

村致候付原區寄

留証返戻戻被減下

度法般右願也

年月日

何誰

⑬ 止宿人届

何府何郡何村何番地

族平民

十二

長門下関

五里

豊前小倉へ百二十

七里

豊前中津へ百十三

里半

筑前博多へ百四十八

里

同福岡へ百四十七里

豊後鶴崎へ百十三

里半

同関へ百〇三里半

同多度津へ四十五里

半

伊豫今治へ六十六里

土佐高知へ七十里

備前牛窓へ三十三里

半

同下津井甲三里半

竹官何業
何誰

右之者嘗^{タフ}府へ何^{タフ}

用事^{ヨウジ}之^レ付^ル罷出

之^レ安^ク私^ニ方^ク尤^モ便利^{ナリ}

里^ノ間^ノ何^レ日^ノ間^ノ止^ル宿

致^シ候^ニ付^テ此^レ段^ノ治^メ属^ス

上^ノ也

何^レ郡^ノ何^レ村^ノ何^レ番^ノ地

何^レ誰^ノ印

年号自^レ口
何^レ郡^ノ何^レ村^ノ何^レ番^ノ地
何^レ誰^ノ印
① 別^ノ戸^ノ願^ス

何^レ郡^ノ何^レ村^ノ何^レ番^ノ地

備中笠岡へ五十里

備後尾道へ五十七里

半

同三原へ六十二里

安藝廣嶋へ三十二里

肥前長崎へ百九十一里半

一里半

同伊万里へ百六十一里

里

同唐津へ百五十七里

里

日向延岡へ百廿八里半

半

大隅渡見へ百七十三里半

里半

薩摩鹿兒島へ百

〇七里半

開拓使札幌郡

願人 何誰

別戸人 何誰

右願人家族何名儀

便宜に付今般別戸

為致度依而者何村

何番地へ戸籍簿編

製之上表札を下渡被

成下度は般年願也

年号月日 願人 何誰印

他國出稼願

札幌へ百廿六里

三十四丁六十間

沖繩縣琉球中

山首里へ六百七十

八里二丁四十二間

日本全國名七十三

郡名六百二十九

明治十一年七月

二十二日太政官

御布告第十七号

○郡區町村編制

法左之通被定候

條此旨布告候事

○第一條 地方

ヲ畫シテ府縣ノ

下郡區町村トス

○第二條 町村

ノ區域名稱ハ總

荒川氏藏

何郡何村何番地
族平民

何誰

私儀今般何府縣下何

郡何村何誰方シテ

出稼カセギト罷越申度モット暴氏

何月幾日出立シユウタツニテ凡何

ヶ月間滯留タイリウ之見込

在在月間出稼シヨウ活

印イン在在出被下及此

段願上名也

十五
荒川氏藏及

公用文列

テ旧ニ依ル○第

三條 郡ノ區域

廣濶ニ過キ施政

ニ不便ナル者ハ

一郡ヲ画シテ數

郡トス(東西南北

上中下某郡ト云

フカ如シ○第四

條 三府五港其

他人民輻湊ノ地

ハ別ニ一區トナ

シ其廣濶ナル者

ハ區分シテ數區

トナス○第五條

毎郡ニ郡長各

一員ヲ置キ每區

ニ區長各一員ヲ

置ク郡ノ狹小ナ

公用文列

年号月日

何准印

歸宅届

和儀當何月幾日

何府下何家と云紙

差支要用相濟本口

歸宅仕月間法殿

申上作也

年号月日

何准印

八字願

何府何郡何村何番地

族平民

十六

荒川氏藏版

ルモノハ數郡ニ
 一負ヲ置クヲヲ
 得○第六條 每
 町村ニ戸長各一
 負ヲ置ク又數町
 村ニ一負ヲ置ク
 一ヲ得但シ區内
 ノ町村ハ區長ヲ
 以テ戸長ノ事務
 ヲ兼スルヲ得
 ○同九月廿日御
 布告乙第五十六
 号
 ○本年第七号布
 告ニ依リ取設候
 郡區ノ事務取扱
 所ハ郡役所區役
 所ト可稱為心得

何維家男弟
 女妹

何維

何年何月

右之者儀本月廿日
 該區小學校八
 字為致度就而名

校堂之規規則嚴重
 為相守可申間入校
 治許空相成度及
 奉願也

何區何村何番地
 右父兄

此旨相達候事
○改姓名御聞届
ヶ條
一同苗同名ノ時
一僧侶歸俗ノ時
一俳優娼妓ノ良
業ニ就ク時
一商家ノ輩戸主
ニ立ントシテ幼

年号月日

何誰

① 歸省願

私父何之誰儀何府

何郡何村何住居在

以愛先般中ヨリ病

氣相發^{ハツ}次^シ才^ニ疲

勞^{ロウ}お増^{マシ}危^キ篤^{トク}存^{ムネ}

電報有^デ之^ン由^{ホウ}存^ン

生中一面話仕度

月間往復ヲ除キ何

名ヲ廢シ世襲ノ
名ヲ用ユル時
一藝業上別號ヲ
用ユル時
一由緒アル旧姓
ニ復スル時
一同姓異名異姓
同名ニシテ其音
訓稱呼ヲ同フス

十六

ル時

右件ノ如キハ改

ムルヲ得ヘシ

○幼年丁年ノ譯

一幼年トハ十五

年未滿

一丁年トハ滿二

十年ナリ

○結婚ノ手續

日間活暇下賜クダレタマハリ様

仕度此段奉願ノ也

年号月日

何誰印

①九 出生届シユツセウ

私妻儀奉月幾日

午前第何時ラシバ分ベ幾男女

子出生作付此名届

申上候也

何區郡何村何番地

年号月日

何誰印

一 華族ハ太政官	一 華士族平民互 <small>タカ</small>	一 結婚ハ双方願	二 及バズ其時ヤ	一 戸長へ届出テシ	一 結婚ハ假令相
----------	----------------------------	----------	----------	-----------	----------

對熟談ノ上タリ

凡双方ノ戸籍ニ

登記セザル内ハ

其効ナキ者トス

一止ダ夫妻ノ約

アルノミニテハ

無夫ヲ以テ論ス

一妾入籍ヲ為サ

ル者ハ妻若ク

ハ妾ト公論セズ

一婦人ハ嫁スル

ノ後モ仍ホ所生

ノ氏ヲ稱ス

一上下一般ノ人

民妾ヲ改メテ妻

トナスノヲ得ヘ

シ

○離婚總則

公用文例

廿 病氣届

私儀去ル幾日何病

候 倦怠頭痛眩暈

甚矣加ルニ何候

作者之山々付出頭可

致之候何分難堪

此間此段迄届申上

候也

年号月日

何雅印

廿 容躰書

二十

荒川氏蔵版

一 離 婚 離 縁 ハ 假
 令 相 對 熟 談 ノ 上
 タ リ 氏 双 方 ノ 戸
 籍 ニ 登 記 セ ザ ル
 内 ハ 其 効 ナ シ ト
 ス
 一 夫 ヨ リ 離 婚 ヲ
 訴 フ ル ヲ 得 ル 者
 一 婦 不 孝 犯 姦 ノ
 罪 ア リ 實 決 懲 役
 一 年 以 上 ノ 刑 ヲ
 受 ケ シ 時
 一 婦 逃 亡 夫 ノ 存
 意 ヲ 以 テ 離 婚 セ
 ント 欲 ス ル 時
 以 上 二 件 ノ 如 キ
 ハ 本 人 直 ニ 届 出
 ツ レ ハ 聞 届 ル ヲ

何 府 何 郡 何 村 何 番 地

何 雜

年 月

右 者 本 年 何 月 中

何 之 病 症 及 茲

候 何 藥 及 腹 用

為 致 候 得 共 更 之 効

驗 多 之 昨 今 加 ル ニ

何 之 催 進 慢 性

病 症 相 成 可 申

按 何 藥 為 用 置 下

得ヘシ

一婦ヨリ離婚ヲ

訴フルヲ得ル者

一婦離婚ヲ請フ

モ夫之ヲ肯ゼザ

ル時

一夫家ヲ出テ二

年以外ニ及ビシ

時

一夫懲役一年以

上ノ刑ニ處セラ

レシ時

以上三件ノ如キ

ハ婦ノ父兄弟若

クハ親屬附添直

ニ離婚ヲ訴フル

ヲ得ヘシ

一其實家ノ兼諾

右容躰如此也

何郡區何村何番地

年号月日 医者

何誰印

③ 死去届

何郡區何村何番地

何誰印

右之者儀久々疾病

罷在^{ツヒ}處遂^{ヤウ}養生^{ゼウ}

不相叶^{アヒカナハ}今何日午後^ズ第^ハ才

何時致^ニ死去候間^一此^一般

所届申上^一也

ヲ待タズ離縁ヲ

訴フルヲ得ル者

一養子逃亡ノ時

一養子ノ自ラ離

婚スルヲ得ル者

一養父母親生ノ

子アリ本生父母

子ナクシテ還^{カヘ}ラ

ントスル時

一養父母死去ノ

後戸主タルノ養

子其生家ニ相續^{オクソク}

人ナキ時

一養父母ニ離婚

ノ權ヲ有スル者

一未タ戸主トナ

ラサルノ養子

一養子母ニ離婚

年号月日

右

何誰印

世三 忘引届

私^{キビキ}父母子兄 誰儀之

病氣之憂養養生不

相叶昨何日午^前第

何時死去^テ依之如

別紙定式^{テイシキ}忘^キ服受之

今日^{アサン}より不^フ祭^{サシ}依^レ之

所届申上^レ也

年号月日

何之誰印

ノ権ヲ有スル者

一既ニ戸主トナ

ルノ養子及其嫡

孫

○後見人總則

一幼少ニテ家督

相續スル時ハ同

籍異籍親戚他人

士族平民ヲ論セ

ス幼主ノ自分家

産ニ於テ有益ノ

人物ヲ撰ミ後見

セシム

一後見人ハ公私

ヲ分タス總テ幼

主ノ代理ヲナス

ト雖モ其後見ヲ

ナス間ハ幼主ノ

④ 同別紙書式

記

一 父母子兄 弟姉妹

病死

族官隱居也

何准

一 忌

何日

送何月幾日
何月幾日

一 服

何日

送何月幾日
何月幾日

右之通告書

年号月日

何准

④ 家督相續願

何郡何村何番地
何府士族何准長男

家禄何石

何准印

何年何月

實印ヲ用ヒス該

家一切ノ諸願伺

届諸証書類ハ皆

已レノ實印ヲ用

ユヘシ

一幼少ノ者ハ諸

願伺等總テ後見

人連署タルヘシ

○營業稅雜種稅

制限御布達

地方稅中營業稅

雜種稅ノ種類及

ヒ制限左ノ通相

定候條此旨布告

候事

○第一條 營業

稅ヲ分ツテ三類

トス其稅額第一

公用文例

右實父誰儀病死仕

作付家督相續儀

前書誰被任付度

此段奉願作也

何縣何村何番地

何縣士族平民

年号月日

親類

何誰印

其

隱居願

何府何區何村何番地

何縣士族

何誰印

右誰長女

何誰印

類ハ金十五圓以	内トシ第二類ハ	金十圓以内トシ	第三類ハ金五圓	以内トス其目左	ノ如シ	但國稅アル者ヲ	除ク	第一類 諸會社	及ヒ諸卸賣商	第二類 諸仲買	商	第三類 諸小賣	商及ヒ雜商	○第二條 雜種	稅ハ其種類ニ依	リ各個ニ稅額ヲ	定ム其目左ノ如
---------	---------	---------	---------	---------	-----	---------	----	---------	--------	---------	---	---------	-------	---------	---------	---------	---------

私儀何年何月何

病又何件有之

付隱居奉願度且

又男子等之候付長

女誰家督相續被

仰付度此段事致也

年号月日

何誰印

何誰印

何區何町何番地
何區何町何番地
 寄留
 何誰印

其二例

シ

船 明治七年第廿一
号布告船漁

船 士々 車 馬車人力
車荷積馬

車 荷積大七八車荷積
中小車荷積牛馬之類

國稅ノ半額ノ内

諸市場演劇其他

諸興行并遊覽所

上り高百分五以

内

諸遊技場 玉突射
當大弓

揚弓吹 一ヶ年金
矢ノ類

二十圓以内

料理屋 西洋料理
理屋共待

合茶屋遊船宿芝

居茶屋人寄席一

箇年金十二圓以

上

質屋兩換屋 為替
店共

私儀退々老衰趣ロウマキ オモム

萬事不行届府隱居マンジ フユキ トムキ

仕度依々何男誰家

智相續為致否此股

奉願也

何縣何區何番地

族平民

年号月日

何誰印

共出願請書シユノタウ

御前紙拜見仕公用キリ カミ

作付明何日第何時

廻漕店一ヶ年金十

五圓以内

古着古金古道具

類書画骨商旅籠

屋諸飲食店鮎屋 鮎屋

蕎麥屋一ヶ年金十

圓以上

湯屋理髮床雇人

請宿一ヶ年金五圓

以內

遊藝師匠遊藝稼九段半

人相撲一ヶ年金十

二圓以內

俳優一ヶ年金六十

圓以內

幫間藝妓一ヶ年金

四十二圓以內

水車一ヶ年金五圓

禮服着用何省察 府縣出

頭可仕之服奉_ニ知_ル

依而活請如_レ此_レ度_ニ

以_レ上

年号月日

何維印

何省察 府縣河_中

拜命請書廿九

私儀今般何省察 府縣何

等出仕拜命難有

謹而活請如_レ此_レ度_ニ

公用文列

以内

乘馬 自用渡一ヶ年
世共

一頭ニ付金壹圓

以内

屠牛壹頭ニ付金

五十錢以内

○第三條 漁業 ギョウ

稅採藻稅ハ各地

從來ノ慣例ニ依

リ之ヲ徵收スヘ

シ若シ其例規ヲ

改正シ又ハ新法

創設セントスル

モノハ府知事縣

令ヨリ内務大藏

兩卿へ稟議スヘ

○第四條 府知

事

公用文列

以上

年号月日

何維印

③ 雇人届

何縣下何郡區何村何番地

何維子弟
女妹

何維

右之者本月何日ヨリ来

ル何年何月迄満何年

之間雇入候付此段ハ届

申上之者也

何郡區何村何番地

廿九

荒川代藏版

事縣令ハ府縣會

ノ決議ヲ以テ第

一條第二條類目

中ニ於テ賦課ス

ル者ヲ取捨スル

ヲ得

○第五條 府知

事縣令ハ其賦課

スヘキ各業ノ盛

衰ヲ視察シ府縣

會ノ決議ヲ以テ

税額制限内ニ於

テ各個ノ税額ヲ

査定スヘシ

○第六條 一軒

内ニ於テ數種ノ

營業ヲ為スモノ

又ハ卸賣仲買小

年号月日

何誰印

③外國人雇入届

何國人

何タレ

私儀今般何處学校相

設ケ候付何國人右タレ

示談之上壹ヶ月金何

圓ヲ以本月何日ヨリ来ル

何年何月と保証人

相立雇入者此般在

届申上候也

之月文依

賣ヲ兼ヌルモノ

ハ其税額ノ最モ

多キモノ壹個ノ

ミヲ徴收スヘシ

○第七條 凡ソ

税額ハ一年ヲ以

テ其制限ヲ定ム

ト雖凡各地ノ便

宜ニ依リ年額ニ

準據シ日税月税

トシテ之ヲ徴收

スルヲ得

○第八條 第四

條第五條ニ於テ

確定シタル課目

課額ハ府知事縣

令ヨリ内務大藏

両卿へ報告スヘ

何縣府何區何村何番地

族平民

年号月日

何誰印

③ 講習願

何縣府何區何村何番地

族平民

何誰印

今般私學開業仕

度付小學教則

教授被成下度此般

奉願候也

何郡何柵何番地

何族平民

冊一

荒川氏藏反

五
附
文
何

シ

○日本帝國電信

條例

○第一條 此條

例ハ日本帝國政

府電信局ニ於テ

所轄スル所ノ電

機上ニ施行スル

モノナリ

○第二條 此條

例中ニ用ユル電

報ノ語ハ百般ノ

音信總テ電機ヲ

以テ傳送シ又ハ

傳送セント欲ス

ルモノヲ指シテ

言フナリ

○第三條 日本

荒川氏唐片

証人 何權印

何府縣小學師範學校

所中

③捨子届

昨何日午後第何時

頃當区内何ヶ所當

歳見受ハ女子棄置

有之候付早速取上テ

養育致置ル所届

申上ル也

廿二

荒川氏唐片

政府電信局ハ日

本國外ノ各地ヨ

リ傳送スル傳報

ヲ除キ日本帝國

中ニ電報ヲ傳送

シ及ヒ請取り取

集ノ届渡等一切

關係ノ事務ヲ取

扱フ專任ノ權ヲ

有ス

○第四條 何人

ニテモ不法故意

ヲ以テ電槽器械

柱木信線若クハ

其線ヲ覆フ逆蓋

管筒或ハ支凸腕

木枷木陶器海底

線浮標旗竿号報

何區何村何番地

族平民

年号月日

何誰印

③ 遺失届

私儀昨何日午後第

何時頃用向キ何

區何村通りヨリ何村迄

至成ク於途中金

縁兩ガラス番郵何

茶之組紐付時計

一箇取落シヨリ

柱及ヒ電機并ニ
 其附属一切ノ物
 品ヲ毀傷スルモ
 ノ或ハ此ノ電機
 ニテ通信ノ電送
 携致シ又ハ届渡
 ヲ何様ナル仕方
 ニテモ妨碍スル
 者其他上件ノ如
 木支凸腕木ヲ扱
 取者ハ五百圓ヨ
 リ多カラサル罰
 金又ハ三月ヨリ
 長カラサル懲役
 或ハ禁獄ニ處ス
 但シ誤過失錯ニ
 出ル者ハ其損害
 ノ多少ニ隨テ償

公用支列

清届申上候也

何郡何村何番地

年号月日

何権印

三五 紛失届

印紙ノ於定申別

紙ノ品ノ紛失致シ

以付馬ノ取調ハ済

痕迹相分不申金ク

被盜取候儀ト有見

此段清届申上

候也

廿四

荒川町蔵反

公刊
禁川
版

金ヲミヲ出サシ

ム

○第五條 電信

掛リ官負及ヒ改

役或ハ其他ノ官

負又ハ何人ニテ

モ電信局ノ事務

ニ従事スル際之

ヲ攻打シ或ハ粗

暴ノ舉動ヲ為シ

其業ニ妨碍抗抵

ヲナス者ハ五百

圓ヨリ多カラサ

ル罰金又ハ三ケ

月ヨリ長カラサ

ル懲役或ハ禁獄

ニ處ス

○第六條 何人

何郡何村何番地

年号月日

何雅印

③拾ヒ品届

私儀本日午前何時

頃何處ニ於テ左ノ

品拾ヒタル者ナリ

添込願法届申上ニ也

何郡何村何番地
何所
年号月日
何雅印

⑦盗難届

昨夜私居宅表裏

之戸口等締りお付一

ニテモ不法ニ柱

木架木海底線信

旗竿浮漂其他電

機又ハ其附属一

切ノ物品ニ馬又

ハ其他ノ^{ジウナク}獸畜或

ハ舟筏等ヲ^{シウバツ}繫^{ツナ}ク

者ハ其所行ニヨ

リ損害ノ有無ヲ

論セス一百五十

圓ヨリ多カラサ

ル罰金又ハ四十

二日ヨリ長カラ

サル懲役或ハ禁

獄ニ處ス

○第七條 何人

ニテモ柱木信線

陶器旗竿腕木架

同打附^シ以^ル處^ニ身^ヲ何

時^シ頃^ヨ盜賊^ル忍^イ入^ル金^ル子^リ

書^シ類^ヨ衣^ル靴^ル等^ル外^ニ紙

之^シ通^ル被^ル盜^ル取^ル問^ル此

段^シ古^ル届^ル中^ニ之^シ也

何^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地

何^ノ誰^ノ印

年^ノ号^ノ月^ノ日

③ 改名願

何^ノ府^ノ何^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地

族^ノ平^ノ民

何^ノ誰^ノ

私儀前書之通相

木支凸号報柱浮
標其他ノ物品へ
瓦礫若クハ雜物
投擲シ又ハ矢箭
火器ヲ彈射スル
者ハ其所行ニ依
テ毀傷ノ有無ヲ
論セス一百五十
圓ヨリ多カラサ

ル罰金又ハ四十
二日ヨリ長カラ
サル懲役或ハ禁
獄ニ處ス
第八條 何人
ニテモ電線ノ近
傍ニテ紙鳶ヲ飛
シ信線陶器腕木
架木支凸其他電

名乗羅在^ナ何^ノ之^リ

故障有^コ之^{シヤウ}付今般

何某^ト改名仕度此

股車^レ形^ク也

年号月日

何雅^印

改印届

何^府何^區何^町何^番地
族平民

何雅

私從來相用奉^シ候

實印^{ケツ}阙損致^シ付

廿七

荒川氏藏

機ニ属スル物品
 一紙爲又ハ其附
 属ノ糸等ヲ引カ
 ケ電氣ノ妨碍ヲ
 生セシムル者ハ
 十圓ヨリ多カラ
 サル罰金又ハ七
 日ヨリ長カラサ
 ル懲役或ハ禁獄

今般更_ニ改正候間左
 通新故共相添此
 股清届申上云也

印 故
 印 新

ニ電

○第九條 何人

ニテモ不法故意

ヲ以テ政府電信

局ヨリ其局々或

ハ電線沼道ノ處

々ニ取建タル標

識掲示等ヲ消削

シ又ハ拔去者ハ

年号月日

何誰印

① 家出届

何區何村何番地

族平民

何誰 父母子兄 弟姉妹

何誰

何年何月

五十圓ヨリ多カ
 ラサル罰金又ハ
 四十二日ヨリ長
 カラサル懲役或
 ハ禁獄ニ處ス
 ○第十條 何人
 ニテモ不法ニ電
 機用ノ一部分タ
 ル柱木旗竿信線

支柱ヘヨギ又ハ
 同様ノ浮標ニ乗
 ル者ハ其所行ニ
 依テ妨害ノ有無
 ヲ論セス二十五
 圓ヨリ多カラサ
 ル罰金又ハ二十
 一日ヨリ長カラ
 サル懲役或ハ禁

右ノ者先年ヨリ發
 狂^{ケフ}菊^{モエ}ニ^モ多ク^クノ^ク處
 昨^フ年^イノ^イ後^フ何^フ時^イ
 以^フ不^イ之^イカ^イ出^イ致^イ
 其^エ行^ク先^フ不^フ分^フ明^フ付^メ
 心^カ當^シ之^シ竹^シ園^シ所^シ悉^シ皆^シ
 相^カ為^シ候^シ得^シ共^シ未^シ夕^シ見^シ
 當^シり^シ不^シ申^シ候^シ間^シ此^シ所^シ
 正^シ届^シ申^シ上^シ候^シ也^シ
 年^シ号^シ月^シ日^シ
 何^シ誰^シ印^シ

心當之竹園所悉皆
 相為候得共未夕見
 當り不申候間此所
 正届申上候也
 年号月日
 何誰印

獄ニ處ス

○第十一條 何

人ニテモ不法故

意ヲ以テ柱木浮

標其他一切電機

附属ノ物品へ落

書圖繪又ハ鑿刻

スル者ハ十圓ヨ

リ多カラサル罰

金又ハ七日ヨリ

長カラサル懲役

或ハ禁獄ニ處ス

○第十二條 電

機掛リ官真及改

役或ハ其他ノ官

真又ハ何人ニテ

モ他人へ届渡ス

ヘキ電報ヲ故意

刑罰文例

④ 家出ニ者歸宅届

何郡何村何番地

何誰 父子兄 弟姉妹

何誰

何年月日

右ニ者去ル幾ノ家出

致シ候間此届申上置

候處今年前第何

時頃突然歸宅仕

以付篤ら承知

某處知何誰

在城居方中居

四十 荒川氏蔵友

ヲ以テ隱匿シ又

ハ電信局ヨリ電

報ヲ届渡スヘキ

命令ヲ怠リ或ハ

肯ビサル者ハ五

十圓ヨリ多カラ

サル罰金又ハ四

十二日ヨリ長カ

ラサル懲役或ハ

禁獄ニ處ス

○第十三條 電

信局ニ仕官スル

モノ故意怠慢ヲ

以テ音信ノ傳送

又ハ届渡スコト

ヲ忘却遅延タル

者又ハ同様ノ一

ニ依テ音信ノ傳

公用文例

今一時叢狂^{カクノコト}爲

此如^{カクノコト}キ事故出來

儀^{カクノコト}存^{カクノコト}依^{カクノコト}之^{カクノコト}此^{カクノコト}段

正届申^{カクノコト}下也

年号月日

右父子兄弟
何誰印

③地券書換願

何區何村何番地

賣渡人 何誰

何區何村何番地

買請人 何誰

右者添紙詳細書通

荒川山麓

送届渡スヲ妨碍
 遷延セシムル者
 又ハ猥リニ音信
 ノ音趣ヲ傳洩ス
 ル者又ハ他ノ人
 民又ハ電信局ノ
 官負ト虫凡其場
 ニ立入ルヘキ職
 務ニアラサル者
 ヲ電信局ノ器械
 室ニ立入ラセ又
 ハ滞居セシムル
 モノ等以上ノ各
 犯ハ一百圓ヨリ
 多カラサル罰金
 ニ處ス
 ○第十四條 凡
 此條例中ニ記載

何誰所持地別紙地
 代ヲ以何某ハ賣買仕交
 奉存候河内濟之上者
 買請人名前之古券
 証之書換被成下度

依之左之通 書記連印

ヲ以此段奉願也

賣渡人 何誰印

買請人 何誰印

年月日

④ 巡查志願書

シタルケ條ヲ顯

然ゼン犯ヲサントス企スル

者ハ五十圓ヨリ

多カラサル罰金

又ハ四十日ヨリ

長カラサル懲役

或ハ禁獄ニ處ス

○第十五條 凡

此條例ヲ犯シテ

電信局所轄ノ物

品ヲ毀傷シ又ハ

他人ノ損失妨害

ヲ生スル者ハ例

ニ照シテ處分ス

ルノ外其毀傷損

失ノ償金ヲ出サ

シム但工部省所

轄電信私線ノ分

私儀

巡査奉職志願ハサニシテ

別紙條目ニ趣誓チカツテ面

確守カクジユ可仕候御試験シケンニ

上清採用被成下度サイヨウ

此段奉願也

何郡何村何番地

族平民

何誰衆男
叙弟

何誰
何年月

何年月

④身元引請保証状
モトヒキウケホシヨウ

モ然テ此條例ニ
準シテ處分ス

○第十六條 凡

犯人ヲ處断シ罰

金并ニ償金ノ額

ヲ定ムルハ總テ

裁判官ノ權ニ屬

ス

○第十七條 凡

犯罰ノ形狀ヲ裁

判官ヘ報告シ其

處分ヲ乞フ手順

ハ工部省ニテ取

扱フ權ヲ有ス

○九年四月御布

告

銀行又ハ為替方

又ハ兩替屋又ハ

何府 何郡 何所 何番地

族平民

何種

右者身元行狀慥成

者有之巡查奉職中

誓約之趣謹テ可相守

儀私於テ保証仕合

借財等不都合有之

節者則私引請申辨

可申尤旅行或者他

府縣等移住候儀

官廳ニ於テ備入
候鑑定人等金銀
銅貨紙幣ヲ鑑定
ノ節贋造品取扱
規則左ノ通相定
候條此旨布告候
事

○第一條 新金
銀銅貨紙幣等贋
造品ハ詳ニ其原
由及ヒ持主ノ宿
所姓名ヲ尋ネ其
面前ニ於テ断截
シ速ニ其最寄警
察出張所或ハ屯
所或ハ區戸長ニ

公用文列

有之候^レ引受代人
相立可^レ申^ル依^テ如^レ件

何區何柵何番地
族平民

年号月日
何誰^印

敬告視局^{ケイシキヨク}治中

⑤土置場^{ツチオキバ}是代^{アシシロ}願

何區何町何番地
何誰

右奉^ニ申上候私^{シヨチ}所持
同町何番地見^ミ立^セ去^ド花^{サウ}
或ハ河岸^{カシ}土藏^シ及大^{タイ}破^{ハニ}

四五

荒川氏藏反

差出シ其顛末ヲ
 申立ツヘシ若シ
 官廳ニ関スルキ
 ハ該廳ヨリ警察
 官署ニ通知スヘ
 シ
 但シ持主立會セ
 サル時ハ必ス代
 理人ヲ出サシム
 ベシ速隔ノ地ヨ
 リ遮送シ來レル
 者ハ立會人ヲ取
 リテ之ヲ断截シ
 速ニ遮送主ニ報
 告スヘシ
 ○第二條 鑑定
 ヲ誤リ正貨紙幣
 ヲ断截シタル時

候付修復仕度右
オウ クワン ミチシキ
 付往還道敷別紙
エ ヅ メシ
 繪圖面朱引之通去至
 代取設ケ申度何日
 ヨリ何日頃と凡何日間

市聞届被成下度依
 之別紙繪圖面右添
 此取奉願也
右
 何種
年号月日
 別紙

二六
 四六
 荒川代藏反

ハ改人ヨリ持主

へ其断截シタル

正貨紙幣ヲ其同

等ノ品ト引換相

渡シ其断截シタ

ル紙幣ハ事由ヲ

詳記シテ管轄廳

へ引換ヲ乞フヘ

シ

○第三條 若シ

正贋定メ難キモ

ノ有之節ハ其原

由及ヒ持主ノ宿

所姓名分明ニ記

載シ持主ノ面前

ニ於テ其品ヲ封

シ持主ヲシテ之

ニ封印センメ鑑

ニ

何町何番地

回

足代

朱ガキ
土置場

何町往還

回

何町何番地

會社役員

近來各港ヨリ外國へ

輸出之製茶負數

年增加之現今莫大

相成之故を自然

製又之應負造之

生之河國産之聲價

三月廿九日

定者ヨリ管轄廳

へ差出スへシ然

ル時ハ該廳ニ於

テ詳細吟味ノ上

全ク正品ニシテ

其製充分ナラス

通用ノ際人民へ

疑ヲ生スへキモ

ハ直ニ持主へ

引換渡スへシ其

贋造品ハ第一條

ニ依ル

○第四條 古金

銀貨幣贋造品ハ

持主又ハ代理人

面前ニ於テ断截

シ直ニ其持主又

ハ代理人ニ還付

失^{カシテ}遂^{ツヒ}ハ^テ濟國^ノ大^モ耗

ヲ^{カモ}釀^シム^ルモ^モ難^シ計^ス憂^ム

苦^ク餘^リ今^ノ般^ニ私^ニ協^ス

議^ギ上^ニ製^ス茶^ヲ改^メ倉^ヲ社^ニ

役^ヲ立^テ仕^テ度^ヲ依^テ社^中

規則^ヲ畫^キ相^シ添^フ出^ス股^ヲ有^ス

願^フ也

何^ノ府^ノ何^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地

年号月日

何^ノ誰^ノ印

何^ノ府^ノ何^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地

何^ノ誰^ノ印

スヘシ

○第五條 贋造

ヲ知ルト虫尺断

截セヌシテ持主

ニ還付シ又ハ由

立ヲ等閑ニスル

者等ハ相當ノ處

罰ヲナスヘシ

○九年五月大藏

省布達

○本年四月太政

官第五十七号公

布贋造金銀銅貨

幣紙幣取扱規則

第一條新金銀銅

貨紙幣等贋造品

ハ其持主ノ面前

ニ於テ断截去々

公用文例

○要醫師藥舖開業願

今般何郡區何村何番

地於何科醫術何

藥舖開業仕度就

兼而活達々趣モ有之

付別紙履歴相添ハ

差出候間而試驗之上

免状^{メシ}下^{シヤウ}テ渡^ル被^ル度

此取奉願也

何府何郡區何村何番地

族平民

四九

荒川氏藏版

公月文例

ト掲載有之然ル

蒙新紙幣ノ儀ハ

百圓ト五十圓十

圓ト五圓二圓ト

壹圓半圓ト二拾

錢拾錢何レモ堅

横ノ寸法同様ニ

付數字ヲ描改シ

五圓札ヲ拾圓ニ

拾錢札ヲ二拾錢

或ハ半圓ニ變換

セシ類比々有之

右ハ素ヨリ廣造

ノ品トモ異リ断

截候テハ不都合

ニ付該紙幣發見

候ハ、裏面、紋色

別紙ノ通各種毎

年号月日

何難印

何年月

只諸然營業願

何郡何村何番地

何難

新儀

自今何後在仕交依テ

者清規則之税金納

候間營業免許口鑑札

正下渡被成下度此股

奉願也

何難印

年号月日

右

五十

荒川氏藏版

ニ裏面ノ紋色ヲ

別ツ既ニ描改ノ

証ヲ所持人へ明

示シ其儘警察出

張所等へ差向同

所ニ於テハ右紙

幣ノ原因其外取

引揚切ニ取計

紙幣寮へ相納候

儀ト可相心得此

旨布達候事

百圓札 裏面淡

紅地ニ紋色深紅

五十圓札 裏面淡

青地ニ紋色深青

拾圓札 裏面淡

紅地ニ紋色紫

⑥ 諸渡共慶業願

何郡 何村 何番地

何 謹

第何号

一 何渡世鑑札 壹枚

右者今度慶業仕名

右渡相成居小鑑札

返納此段正届中ニ也

年月日

何 謹 印

⑤ 荷車換印願

何郡 何村 何番地
何業

五圓札 裏面淡

黒地ニ紋色青

二圓札 裏面橙

黄地ニ紋色茶褐

色

壹圓札 裏面淡

青地ニ紋色深青

半圓札 裏面白

地ニ紋色淡褐色

二十錢札 裏面白

地ニ紋色青

拾錢札 裏面白

地ニ紋色緑

○六年六月御布

告

内國人民一般并

御雇外國人ニ至

ルマデ海關輸出

公用支列

何難

何積
一荷車

手輦

但輪何

右者此度新規修理

仕高用_{シヤウヨウ}亦用_{ヨウ}及依_{ヨリ}

市規則之税金相納

之間拾換印被成下度

此股奉願_右也

何難_印

年号月日

⑤ 馬車 換印願
人力車

五十二

長川代紙及

入荷物取扱條例

別冊之通被定候

條此旨相達候事

○海關輸出入荷

物取扱條例

○第一條 官省

使寮司及府縣官

真并留學生徒ニ

至ル迄政府ノ命

ヲ奉シ海外ニ航

旅スル者公用ノ

荷物并ニ本人相

當ノ旅具ヲ除ク

ノ外輸出入共商

品同様一般收税

スヘシ

○第二條 前款

ニ掲クル官真并

一馬車

何輛

但シ三月
二子月

一人力車

何輛

内 二人乗 何挺
一人乗 何挺

右者今般新造致シ

候間活換印被成下

度車税之納之儀者亦

規則之通急之相納

申候也

何區何柵何畜地

何權印

五 錢炮換印願

二留學生徒發着
 ノ前後輸出入又
 ハ他邦滯留中送
 致セル貨物等無
 稅通関スヘキ旨
 大藏省ノ証書無
 之分ハ商品同様
 一切收稅スヘシ
 ○第三條 華士

族ヨリ平民ニ至
 ル迄商業或ハ留
 學遊學等ノ為メ
 自費ヲ以テ海外
 へ渡航スル者尙
 物輸出入ノ際本
 人相當ノ旅具ヲ
 除クノ外一切收
 稅スヘシ

一火繩筒ヒナ小銃ツツ何挺

一元ヒ施條炮何挺

一ヒストル銃何挺

右者私所持致イウレウ遊獵

及シヤウ非常ソナヘオキ為ニ備置ル處

今般活槍印被減下

度法販奉願ル也

何區何町何番地
族平民

年号月日
何誰印

⑤ 旅人宿營業願

公用文例

但シ相當具免稅

ノ荷物ヲ定ムル

ハ稅関官吏ノ意

見ニシテ本人之

ヲ取捨増減スル

一ヲ得ヘカラズ

○第四條 官省

使寮司及府縣ニ

於テ雇役ノ外國

人自用品其自國

又ハ他國ヨリ取

寄或ハ御國産ヲ

其本國へ差送ル

分トモ自今約定

書中自用品無稅

通関可指許旨ノ

明文無之分ハ輸

出入トモ商品同

公用文例

宗川氏府片

何郡何柵何番地

何雜

私儀

是ト何高業罷_キト_ス交

今度旅人宿營_{リヨジンヤド}業致

度依_テ旅人宿營_ル札

涉下_ケ渡可_ニ被_ニ成_トル

然_ル上者_ノ規則_ノ儀

堅_ク相守_ル決_シテ_ハ違_ハ背_キ

致_ス間_ノ致_ス且_モ月_ノ可_ニ致_ス

上納稅金_ハ必_ズ差_シ遲_ク滞_ル

五五)

宗川氏府片

公府文

様收税スヘシ

但向後外國人傭

入ノ節有税ノ自

用器ハ輸出入ト

モ免稅致スヘキ

旨條約面ニ記載

スヘカラス

○第五條 前條ニ掲クル外國人

来著又ハ滿期帰

國ノ節輸出入ノ

荷物本人相當ノ

旅具ヲ除クノ外

商品同様收税ス

ベシ

○六年八月御布

告

危害ヲ生スヘキ

相納可申候若シ亦

怪^{アヤシ}キ人物泊^{ハク}スル時者

即時區務所^{ミツコク}ニ密告

万端^{チウイ}注意可致依之

此段^レ幸願也

何郡何村何番地

何雜印

年月日

料理稼^{レウリカセキ}管景願

何郡何村何番地

何雜

右者自今料理稼管

五夫

荒川氏蔵版

物品ヲ漫リニ船

積致シ候テハ他

ノ物品ヲ傷害シ

甚ダシキハ全船

ヲ失ヒ人命ヲ損

シ不容易儀ニ付

左ノ條件ノ法則

ヲ定メ當明治六

年十一月一日ヨ

リ令施行候條此

旨布告候事

○火藥硝石硫黄

ノ類及ヒ發火シ

易キ製藥品其他

油脂醬液并ニ腐

敗シ易キ性質ニ

シテ他物ヲ損害

スヘキ物品船積

業仕度依テ者法規

則ニ税金相納間業

免許治鑑札立下テ後

被成下度法取テ取

上

年号月日

何准印

⑤ 漁船捨印願

一何船 一艘

但シ長サ何間船體ノ大小ト

右ノ和漁船一方ノ為

相設ケ候船ニテ今般

致シ候片ハ其品
 名ヲ表包ノ外部
 ニ書キ記シ或ハ
 其送状ニ記載致
 シ船主船長又ハ
 運漕會社危難請
 合會社等ノ承諾
 ヲ得テ後差出ス
 へシ若シ其手數

無之尋常ノ荷物
 ト伴リ之ヲ船積
 致シ或ハ船積セ
 ント謀ル者ハ金
 五百圓以内ノ罰
 金ニ處スヘキ事
 ○尋常ノ物品ト
 シテ差出シタル
 荷物ノ内ニ前條

新造致シ且問取捨印

被成下度勿徧他稜

業六更相用申問敷

依之此段奉願片也

何府何郡何村何番地
 何准印
 年号月日

官有地相借願

字何ノ何番

一何所何町何反何畝步

或者何坪

此拜借料

一々年又ハ
 一ヶ月付
 金何圓

ノ如キ危害品可

有之ト見受候時

ハ船主船長運漕

會社危險請合會

社ハ何時ヲ限ラ

ス何地ヲ論セス

直ニ發包シテ之

ヲ視查スルノ權

利可有之事

但為視查發包シ

タル荷物中ニ危

害品無之キハ船

主會社等ノ入費

ヲ以テ故ノ如ク

荷造可致然レモ

其荷ノ中ニ危害

品有之時ハ是等

ノ入費都テ荷主

但 幸及或ハ百坪付
全何程

何々年季
何々月

右地所何之用ノ為メ相借

仕度岩百坪間届ノ下

度尤モ百坪間届ノ上者

前書ノ料金 年々又上

納可仕ノ依之繪圖面

相添存願片也

何府何郡何村何番地
族平民

年々月日 信主 何誰印

ヨリ可拂事

○此危害品ヲ船

積ミセザル以前

運漕會社又ハ危

險請合會社ノ倉

庫等ニ放テ見出

ス并ハ之ヲ安全

ノ場所ニ移シ置

キ直ニ其管轄廳

或ハ裁判所ニ可

届出事

但安全ノ場所ニ

之ヲ移スノ入用

ハ荷主ヨリ辨償

可致事

○此危害品ヲ既

ニ船積シタル後

ニ見出シ之ヲ安

公用文例

保証人 何誰印

⑤ 貿易品賣込届

記

何國産 一茶百斤入 何子袋

但ニ百斤ニ付金何程 此代金何子圓

一生糸 何百斤

但ニ百斤ニ付金何程 此代金何子圓

右合入金何万何子圓

此五厘金何程

右之通何辨地何誰

賣込以名此販涉届

公用文例

全ノ場所ニ保チ
 難キ時ハ船中ニ
 於テ三人以上ノ
 保証人ヲ立テ之
 ヲ海中ニ投棄シ
 着港ノ上直ニ其
 次第書及ヒ荷主
 ノ姓名ヲ其地ノ
 管轄廳或ハ裁判
 所へ可届出事
 但投棄シタル荷
 物及ヒ是ヨリ生
 スル荷主ノ損失
 ヲ辨償スルニ不
 及事
 ○船長及ヒ運漕
 會社等荷主ト申
 合此危害品ヲ尋

申上之也

年号月日

何雅

⑤ 同買取届

記

何番地何雅ヨリ
 一帽子何百何拾ダース

但シモテスニ付何程
 法代金何百圓

右金何百何拾圓

法五厘金何圓何錢

右通買取中ノ旨

法股取届中ノ旨

何區何町地

六五

荒川代蔵反

常ノ荷物トシテ
船積シ或ハ船積
セント謀ル者ハ
金五百圓以内又
之ヲ見出ストイ
ヘ氏官ニ訴ヘ出
テサル時ハ金二
百圓以内ノ罰ニ
處スヘキ事

○八年十二月御
布告
今般廻漕貨物取
扱條例左ノ通相
定メ候條此旨布
告候事
○廻漕貨物取扱
條例
○第一條 廻漕

年月月日
何誰

○學費金獻納願

方今各所ノ小學校

古設立ノ多量ニ蒙テ教育

ハ方法相立萬民

慶福不遺ニ竊ニ奉

拜祝ニ依而從學生

徒助力ニ為メ少分ナ

カラ金何圓近傍某

學校ニ差出度此段

貨物ノ荷造リハ
濡沾減損或ハ漏
脱等ノ難ヲ防グ
ベキ様務メテ堅
固ニシ其品柄又
ハ荷造リノ模様
ニヨリテハ錠鎖
或ハ封印スヘシ
○第二條 穀物

塩類等ノ俵物酒
醬流液ノ樽物等
総テ減損漏脱シ
易キモノハ積入
ノ時必ス船主貨
主ノ間ニ特殊ノ
約定ヲナスヘシ
○第三條 船主
ハ荷造ノ粗糲ナ

古聞届江減下ノ様
奉願也

何區何村何番地
族平民

年月月日
何准印

①女工場役立願

開明日進之折拍本邦
之功業又從之洋製ヲ
模擬之精造ヲ極ノ現
今之者既僻邑孤村
とモ波及仕月一其未ク

ルカ錠鎖或ハ封
印ナキヲ以テ第
一條ノ難ヲ防キ
難シト思惟スル
中ハ貨主ヘ其趣
ヲ通知シテ之ヲ
堅固ナラシメ或
ハ錠鎖封印セシ
メ又第二條ノ物

品ヲ托セラルル
片ハ特殊ノ約定
ヲナスベキヤ否
ヤヲ訊問スベシ
○第四條ノ貨主
ハ第三條ノ通知
或ハ訊問ヲ得ル
モノヲ堅固ナラ
シメス或ハ錠鎖

女巧ニウニ至リテハ兎角キウ意

習洗シウ脱仕ダツ魚遺イ遺憾カン

之ニ至ル存在仍ル此ノ度

有志シユ輩サン申バ合トク女子シヨ

授シユ産サン場バ設トク立シヨ讀シヨ書

習シユ字サン算シヨ術シヨヲ初キメ機

織シヨク裁サイ縫ホウ其ホウ他キ諸キ技

術シヨク至ルと習シユ練レンるキ致

度シヨク尤シヨク教シヨク場シヨク營シヨク繕シヨク及シヨクヒ

教シヨク師シヨク月シヨク給シヨク等シヨクノ儀シヨク者

封印セズ又其約

定ヲ為サザルキ

ハ濡沾減損或ハ

漏脱等ノ難ヲ運

漕中ニ生スル氏

船主ヲ對シ其辨

償ヲ要スル權利

ヲカルベシ

第五條 廻漕

運賃ハ發船ノ甲

地ニ於テ波止場

或ハ船主ノ倉庫

等船主ノ其貨物

ヲ受取ルベキ適

當ノ地ト定メタ

ル場所ヨリ著船

ノ乙地ニ於テハ

波戸場或ハ其船

有志者一統ニテ入

費過半ヲ辨シ其餘

者ハ習ヒ生徒ヨリ分

限相應ニ授業料

取立不足ヲ補ヒ且テ

必然永續可仕ル者

依テ規則書相添付

取奉願也

何郡何村何番地

何権印

何権印

年月日

空五

荒川氏蔵版

公用文例

主ノ倉庫等ノ其

貨物ヲ引渡スベ

キ適當ノ地ト定

メタル場所迄ノ

運送費ヲ稱スル

モノニシテ甲乙

地ニ於テ其定メ

タル場所ノ外之

ヲ取集及ヒ配達

スルノ費用ヲモ

合スルモノニア

ラズ故ニ其取集

及ヒ配達ヲモ船

主ニ托スル片ハ

貨主ハ廻漕本賃

ノ外ニ相當ノ取

集及ヒ配達賃ヲ

拂ハサルベカラ

荒川氏蔵版

⑥ 發明器械專賣願

クワンライ
クワンライ
ガシ
元來諸系ノ儀者本

邦第一ノ古國産ニテ

漸々輸出ノ増加あり

以て何分製器担担

ニテ自然ノ費不才

在存巧妙至便

新器發明仕及日

夜丹練ヲ凝シ漸ク

此度首成試驗致

ズ

○第六條 前條

乙地ニ著船スル

片ハ船主ヨリ貨

主ニ其貨物ヲ渡

スベキ適當ト定

メタル場所ニ於

テ何日何時ヲ限

リ其貨物ヲ渡ス

ベキ旨ヲ報告ス

ベシ若シ貨主ノ

都合ニ依リ其時

日過キテ之ヲ受

取ラザルキハ其

後ニ至リ危険損

害ヲ生ズルハ船

主ハ其責ニ任セ

ザルベシ

公用文例

以て一以て十に當りし

様被る河沿檢

査之上實効顯然

以て專賣に許可

奉願度は取上り

作也

何府何郡何村何番地

年号月日

何誰印

博覽所設立願

今般何郡區何處に於

て本月某日より來何

六十七

荒川成藏版

但其報告スベキ
 日時ハ必ズ貨主
 ノ受取得ベキ適
 宜ノ時間ヲ以テ
 スベシ若シ不適
 宜ノ時間ヲ以テ
 スルキハ之ヲ報
 告セザルト同般
 ト做スベシ然ル

トキハ之ニ生ズ
 ル危険損失ハ船
 主ノ責ヲ免カ
 ベカラズ
 ○第七條 前條
 ノ如ク其報告時
 限ヲ過ルキハ船
 主ハ之ニ生ズル
 危険損失ハ其責

公用文例

月某日と日数筆の間
 有志輩申合天造
 人々新古諸器物
 及ヒ書画琴棋等々
 持寄陳列致シ縦

覽所設立仕人民間
 智一端モ仕及素
 志此度乃特別
 古往儀ヲ以テ取
 許容上成下ノ採奉

六十六
荒川氏蔵版

任セズト雖氏必
 ス危険損失ヲ生
 ゼザル様之ヲ倉
 庫ニ納メ或ハ番
 人ヲ附ケ或ハ兩
 覆等ノ備ヲナシ
 勉メテ保護ノ手
 立ヲナスベシ然
 ルキハ相當ノ倉
 敷料番人賃其他
 之ニ属スル費用
 ヲ貨主ヨリ拂ハ
 シムベシ
 ○第八條 廻漕
 運賃ハ第五條ニ
 記載セル甲乙約
 定地ノ全運航賃
 ナルニ因リ其全

願也

何郡何村何番地

年号自日 願人 何准印

何郡何村何番地

願人 何准印

諸技術 興行願
 戲場

今般何郡何村何

社寺境内於素

幾日ヨリ何月幾日マテ

日數何日之間何

藝云或者戲場興行

運航ヲ畢ヘサル	間ハ貨主ハ之ヲ	拂フコトヲ拒ムノ	理アリ又幾百石	何千斤ニ付此運	賃若干ト約定セ	シニ其全量中幾	分ノ不足ヲ生ス	ル片ハ貨主ハ其	全運賃ヲ拂フコト	ヲ拒ミ得ベシ然	レ凡其全量幾百	俵何千箇ヲ運送	セシムルモ其一	俵一箇ニ付運賃	幾許ト約定セル	片ハ其全量ノ如	何ヲ問ハス之ヲ
---------	---------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

仕度尤所規則
 堅ク相守上納税金
 等々遲滞亦納可
 中ノ旨所許允也
 交法股事類也

何種何種何種
 年号月日願人何誰印

④瓦斯燈設建願

何郡何村何番地何
 會社前、是と設立
 仕置及瓦斯燈二基

受取リタル俵數
箇數ニ就テ約定
運賃ヲ拂ハザル
ベカラズ又封印
ヲ檢シ外包ノ異
狀ヲキヲ以テ之
ヲ受取後其包中
ノ物品ニ不足或
ハ損傷アルモ其

辨償ヲ船主ニ責
ムルヲ得ベカラ
ズ
○第九條 船主
ハ其約定ヲ履テ
安全ニ其貨物ヲ
運送スルヲ本分
部ノ義務トス故
ニ第一條ニ及ビ

破損及ヒタル付蓄貯
相慶ニ別紙圖面
塲所ハ三基建設仕
度在存ハ此般直許
宜ク下度在存也

何郡何村何番地
某會社長

年号月日
何 雜 印

河流 後 疏 願
溝渠

何郡何村字何河
溝渠本年何月以

第二條ニ遵ヒタ

ル貨物或ハ正ニ

請取シ旨ヲ証シ

タル貨物ノ全數

中ニ損害不足ヲ

生スル等ノ事ア

ル片ハ其貨物ノ

原價ニ從テ之ヲ

辨償スベシ

但海上難船ノ災

厄ニ罹ルモノハ

危險受負法或ハ

海上平均法ノ別

種ニ属シテ此限

ニアラス

○第十條 運賃

ハ船主貨主ノ協

議ニ依リテ甲地

来霖雨^{ウシバ}ノ付自然^シ土

砂流^{サカ}山填塞^テ致^シ流

通^{ヨロシ}宜^カラ^ス農事^ノモ

水関^ノ間^ニ此度^ノ村^内

有志^ノ輩^申合^シ自^費

ヲ以^テ後^ニ疏^仕及^シ以^テ後

活^字被^成下^度

奉^願也

何^府何^郡何^區何^村何^所何^處他

何^人何^誰何^誰何^誰

何^日何^誰何^誰何^誰

年号月日

公田

又ハ乙地ニ於テ

受拂フベシ然レ

凡之ヲ乙地ニ於

テ受拂フ時ハ其

貨物ト引換ヲ以

テスベシ若シ貨

物ヲ受取リタル

後其拂方ヲ怠ル

ルハ船主ハ其受

取ルベキ貨額ヘ

對シ相當ノ利息

ヲ課シテ要請ス

ルヲ得ベシ

○九年二月御布

告

度量衡三器別紙

種類表ノ通改定

候條此旨布告候

公用文例

○クワイユン開墾地拂下願

何郡何村公有地字

何森赤土而地味充

分者多_ニモリ_{アカツチ}瘠_チ下_チモ

為_ス水旱_{カシ}之患_{ウレイ}无

多_ク様_ニ存_ル間_ノ目_ノ今

已_ハ不用_{ヨウ}地_チモ_ロ以_テ存_ル以_テ

入_レ札_ニ拂_フ被_シ作_ル付_テ發

尤_モ見_ル込_メ投_ゲ標_ニ可_ク仕_テ管

付_テ萬_ノ一_ノ解_ク人_ノ為_ル札_ニ

七十三

廣川式藏版

事

○度量衡改定條

例

○第一條 三器

改定ニ付各地方

ニ三器製作并賣

捌所ヲ設ケ製作

所ニ於テ製作セ

ル新器来ル三月

十五日ヨリ賣捌

所ニ於テ發賣為

致從前ノ秤座秤

座ハ同日ヨリ廢

止候事

○第二條 各地

方ニ舊器改所ヲ

設ケ候條從前所

持ノ三器来ル三

古拂下ケ中ノ者名

私ヨリ示被テ遂ケ讓

請連ニ開拓仕直定

鋤下年季及者相

當ニ上税可仕右開

聖土ニ付故障筋聊

各古存ノ間繪圖面

相添法段奉願也

何郡何村何番地

何權印

年号月日

地所開聖願

月十五日ヨリ十

二月十五日マデ

ニ右改所へ差出

シ検査ヲ請クハ

シ右期日ヲ過ギ

檢印ヲキ器ヲ商

業上ニ用フル

ヲ禁ズ時宜ニヨ

リ掛リ官吏商家

ニ入り用器ヲ視

察スベキ事

但改所ニ於テ檢

査ノ上新器ニ適

合セル分ハ檢印

シ廢スベキ分ハ

廢ノ字ヲ印シ總

テ所持人ニ下ゲ

戻スベキ事

公用文列

何郡何村儀元來

山地多ク田畑少ク加ルニ

兩三年引續タル旱

損ニテ貧窮者トモ

追々破産致シ懸然

々々々々依る者ニ村

由一統集議仕方受

右山若之由モ平坦

ニ場所凡何百坪

位ニ地面何ヶ所程ニ

○第三條 製作
 所賣捌所官許ノ
 外三器製作賣捌
 一切不相成事
 但尺ハ尺杖等一
 時使用ノ為メ目
 盛リ致シ柵ハ竿
 鳥竿等ヲ量ル為
 メ箱ヲ製シ又ハ
 賣買スルハ苦シ
 カラズ
 ○第四條 尺度
 秤量ノ目ヲ盛直
 シ柵ノ録鐵弦鐵
 ノ打替ヘ斗概ヲ
 修復スル等ハ必
 ス製作所へ差出
 スベク秤量ノ緒

戸間更ニ開拓仕四木
 三草之内地味も應
 之品相撰植付申交
 尤費用儀者一時
 村内身柄者共ヨリ

相辨置積左存者
 自今何年之後者餘
 程之利潤相成自茲
 貧民救助方法モ
 相立可申決談仕

紐ツラカヘヲ附替ルハ製
 作所又ハ賣捌所
 ニ差出スヘシ其
 他ノ人自儘ニ致
 シ候儀不相成事
 ○第五條 旧新キウシン
 器其檢印ツルヲ
 賣捌度者ハ必ス
 賣捌所ニ可申出

事
 但秤ノ錘皿又ハ
 枰ノ録鐵弦鐵等
 ヲ取離シ古鐵ト
 シテ賣買スルハ
 苦シカラズ
 ○第六條 第二
 條以下ノ禁令ヲ
 犯ス者ハ其品取

月間何卒右開墾
 之儀許允ニ下度

奉願ノ也

何府何郡何村何番地

願人何誰印

年号月日
 日 何誰印

⑥ 荒地アレチ檢査ケンサ願

何郡何村字何ノ田

畑先月中ヨリ連雨レンウ

洪水ゴウスイ而ニ昨ノ幾キ日ニ字何

堤凡何間程押切水オシキレ

上ケ律ニ照シテ

覆断スベキ事

○六年三月御布

告

旧藩々ニ於テ從

来諸方へ貸付金

穀取立ノ法則別

紙ノ通相定候條

此旨相達候事

○貸附金穀取立

法則

○第一條 凡旧

諸藩ヨリ貸出シ

タル一切ノ貸附

金穀ハ向後都テ

無利息ト定メ各

其種類ニ因リ年

賦ヲ以テ可取立

災ヲ蒙リ只皆多而已

ナラス地盤高低亦減

殆未用、如ク相成管

實地活見分之上貢

税免除、任付及小

前帳相添此段等願

也

何府何郡何村何番地

年号月日

願人

何誰印

日

日

何誰印

提防修築願

事

但明治六年ヲ以

テ取立初年ト定

△

○第二條 天保

十四癸卯年以前

ノ各種ノ貸附ハ

一切棄捐弘化元

甲辰年ヨリ慶應

三丁卯年迄廿四

ケ年間ノ部ハ全

數ハ三分一棄捐

明治元戊辰年ヨ

リ廢縣迄ノ部ハ

全額可取立事

○第三條 嘉永

六癸丑以來藩列

ニ被加又ハ一旦

何郡何村字何堤

凡長何百間程場

所當春以來ニ霖雨

而河水相増及故

頗破損致之及也

向後萬一洪水有之

及節者決潰之程

難計以間岸付並

置等仕度至急以是

分被成下度此段幸

減土サラニ新立

ノ藩ヨリ貸附ノ

分右列藩以後ノ

分ノミ可取立事

○第四條 各種

ノ貸附高現在迄

辨残ノ内元利結

込有之分ハ利子

ハ除去元金ノミ

可取立事

○第五條

産物

起立ノ為成辰ノ

年藩々石高ニ應

ジ拜借有之楮幣

ヲ以テ貸附有之

分ハ其節定則ノ

通可取立事

但藩費ニ遺拂候

願也

何郡何村何番地

年号月日

何誰印

カハ スダ セ ガハ

河筋瀬替願

何郡何村何番地

境有之何河

キヨクセツ

後来曲折多ク

スギゲン

モヨリ

近頃水源家寄

サカン

山方古閑拓盛致

山方古閑拓盛致

公府文

分ハ此限ニテラ
ス

○第六條 米金

貸附ノ節物品引

當有之分其物品

ハ入札拂ノ上代

價一時上納可致

事

但家屋敷田畑山

林等静産ノ類引

當ノ分并引當物

品現今無之分ハ

其事故可申出事

○第七條 米穀

ハ各地方壬申三

月平均相場ヲ以

テ金直シ可取立

事

公明大判

荒川氏藏板

土砂押流之出沙

毎一出来水以

壅塞仕是カ為河

下村度水害

被リ付法否者知

協議之上何村内字

何處ヨリ何處迄凡

何百間ノ場所別紙

圓面ノ道直径ノ掘

割瀬替仕度在

全ノ 荒川氏藏板

○第八條 銀價

ハ東京ハ金壹圓

ニ付六十目西京

ハ一ヶ年平均相

場大坂ノ庚午五

月銀相場察止ノ

節布達ノ平均相

場ヲ以テ可取立

事

○第九條 藩造

各種ノ紙幣ハ新

貨比較表ニ基キ

計算シ可取立事

○第十條 正租

雜税不納ニテ証

文差入レ貸附ニ

相成候分ハ別段

詮議ニ可及就テ

若村^サ地^チ所^ノ相^ニ増^ス且

水^ノ災^ヲ免^レ一^ニ舉^ス兩^ニ便

奉^ル存^ス何^ノ卒^ニ實

地^ノ古^ノ換^レ覽^ス此^ノ般

淨^ク許^ス可^ク江^ノ下^ノ度^ニ奉

願^ハ也

何^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地

何^ノ誰^ノ印

同^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地

何^ノ誰^ノ印

七 橋梁架替願

ハ古貸附ノ原由

并實地取立振等

調査ノ上可伺出

事

○第十一條 貧

民へ救助夫食種

扱農具代トシテ

貸附ノ分明治元

戊辰年以前ノ分

ハ總テ棄捐以後

ノ分ハ半高棄捐

半高十ヶ年賦可

取立事

○第十二條 産

資ノ為金穀及品

物貸附ノ分ハ八

ヶ年賦可取立事

○第十三條 掛

何郡何村ヨリ何驛へ

是と架渡有と何

橋候洪水と等

毎押流其都度

往來不通と相成

困難仕問今度迄

寄有志と者共協力

奮發仕自費ヲ以石

橋新規架替仕度

依之概圖相添仕段

屋用達等へ無利

足預ケ金又ハ諸

勘定残金預有之

分ハ一時可取立

事

○第十四條 税

外産物及貯畜米

等ノ内貸附有之

分十ヶ年賦可取

立事

○第十五條 講

金ノ類掛ケ込有

之分ハ其出金高

ノ半高棄捐半高

一時可取立事

○第十六條 士

族帰農商産資金

トノ貸附有之分

奉願也

何郡何村何番地

手号自り

願人

何雅

印

曰

曰

何雅

印

シユモク タチガレ

七二 樹木立拈拂下願

何郡何村字何ノ官

林ノ樹木凡何拾本程

立拈收管所見分

之上八札古拂下ケ被

成下度仕段也

公田
公田
公田

ハ從前ノ方法ヲ

以テ可取立事

○通常家禄引當

トメ貸附候分ハ

可為棄捐事

○第十七條 宿

場助成金トシテ

金穀貸付ノ分ハ

取立ニ不及事

○第十八條 凡

通常証文面無批

入用ニ付借用又

ハ要用ニ付拜借

等名儀判然無之

分ノ貸附金穀ハ

十ヶ年賦可取立

事

○第十九條 借

公田
公田
公田

公田
公田
公田

何郡何村何番地

何誰印

手号月日
田畑賣買地券願

某國何郡何村何番

何番

字何

何郡何村

一畑何及何畝何步

此等何名何字何計何合

此地代金何圓也

持

何誰

何誰

買借人

何誰

右地所今般相對

上賣渡且買借事

八五

人共一時返納致

度旨願出ル者ハ

元高へ一割利引

ノ計算ヲ以テ本

額ヲ減シ返納差

免候事

右之通相定候條

毎年十一月中割

賦通取立十二月

廿日限管轄廳ヨ

リ大藏省へ可相

納候尤追テ從前

ノ証書へ調査ノ

印ヲ捺シ各管廳

へ可下渡候條請

取方并ニ上納手

續等同省へ可伺

出事

積相談相整ト云々

買之儀河内濟地券

下渡被下置度依

區長郡長 書記用掛 奥印ヲ以テ股

奉願ト以上

右 何雅印

右 何雅印

前書ニ趣催方本札

シヤウジツ 情實相違母

直座依之私連印ヲ以

○附録

- 一 明治二已巳
- 六月以来旧知藩
- 事手許金ヲ以テ
- 貸附ノ金穀
- 但藩々ニ借入候
- 分ハ非此限
- 一 旧幕府日光
- 上野ノ外官諸藩

社寺ノ名目ヲ以
テ貸附ノ金穀
但同上
一 藩列ニ被加
候家及再立ノ家
ヨリ列藩并再立
以前貸附ノ金穀
右貸借ハ双方相
對ヲ以テ返辨可

正殿中之上

郡區長

年号月日

何雅印

⑤ 孝養届

カウ ヨウ

何郡 何村 何番地

何業

何雅長女

何年月

右ノ者從來貧窮

之實母誰ハ去何年

前病死致引續父

誰本年何年間

難病ヲ平卧罷在又

致因テ証書類下

候條請取方大

藏省へ可申出事

○六年三月御布

告

本年第八十一号

布告旧藩々ニ於

テ貸附金穀取立

法則別紙ノ通追

加相成候條此旨

相達候事

○貸附金穀取立

法則追加

一 旧藩々貸付

一 紙証文金高ノ

内元入并ニ棄捐

引去全ク取立高

金五圓以下五十

末子ナルモノハ 幼稚ニテ

父嬖ノ苦辛ヲモ 辨へ

不申然レニ娘ノ身成

若年ニ若クモ至ル

孝心厚ク唯病父ニ

有命ヲ祈リ近傍ノ

者其困難ヲ憐レ

出稼等ヲ申勸メ

父ノ病患ヲ樹念致シ

病床下ヲ不離シ家

錢以上銀錢札ハ

價格表ニ照準金

直米并ニ品物ハ

代價五圓以下五

十錢以上雜穀ハ

五石以下五斗以

上都テ法則ニ定

メタル年賦ニ應

ジ一割利引ノ計

筭ヲ以テ一時取

立大藏省へ相納

可申事

一 右同断取立

高全數金五十錢

未滿銀錢札前同

断米并品物ハ代

價五十錢未滿雜

穀ハ五斗未滿ノ

家中ニ於テ晝夜

勤勞ヲ厭ス賃業仕

父ニ藥料ニ換日身

ヲモ接育シ毛頭親

命今ノ不肖申實

可賞者ニ有在問

此段上申仕也

洋行願

何郡何村何番地
族平民

何誰長二男
何誰

モノハ各悉皆棄
捐タルヘキ事

但右ニケ條共法
則第五條第十六

條ハ非此限

○六年八月御布

告

動産不動産書入
金穀貸備規則左

ノ通相定候條此
旨布告候事

○動産不動産書
入金穀貸借規則

一 動産不動産

ヲ書入ニ為シ金

穀貸借致シ右期

限中書入ノ動産

不動産流亡又ハ

右ノ者今般何学

修業ノ為ノ英國就

動ハ本月何日ヨリ何

年何月何日ヨリ何

自費ヲ以テ差遣否何

率願ノ通口許宜

成下度法股率願

也

年号月日

右父

何誰印

何誰印

焼失ヲ為スト雖

氏負債ハ身代限

濟方可申付事

一 動産不動産

ヲ書入ニ為シ金

穀貸借シ濟方ノ

期ニ臨ミ右書入

ノ動産不動産ノ

相場高下アリテ

糶賣ノ價ヒ負債

ノ高ヨリ餘分ア

ル時ハ其餘分ハ

借主へ與フベシ

若シ其價ヒ負債

ヨリ不足ナレハ

身代限濟方可申

付事

一 壬申第三百

公用文例

何區何村何番地
保人

何誰印

シヨウイン
七六 控印願

別冊通又右
利息帳
受主帳
紙

數何百枚法附込見積

金高何圓ヲ極メ右用

作付右迄控印ニ成

下度存願ハ尤右重

高右充以上者假令毎

紙有之者其決ケツシテ右用

号布告以前家禄
 ヲ書入ニ為シ金
 穀貸借致シタル
 分ハ家禄ヲ除キ
 外品物ヲ以テ身
 代限濟方可申付
 事
 ○九年六月御布
 告

戊辰ノ際諸軍出
 張先或ハ御用先
 ニ於テ調達金又
 ハ献金献穀等致
 シ候者追々御返
 辨被遊度候ニ付
 於府藩縣取調方
 ノ儀明治二年二
 月中御沙汰相成

申問敷月依
第一類

所印税ニ納仕月間

仕儀手形月以上

何郡何村何番地

何誰印

⑤ 出帆願

一 船名 何丸

船形 何

積高 何程

船主 何處何誰

乗組 何人

候 慶右ハ同年四
 月限リ取調詮議
 可及筭ニテ右期
 限後請求ノ儀願
 出候トモ採用不
 相成筋ニ候條此
 旨布告候事
 ○九年六月御布
 告

宮方ハ調達金届
 出方ノ儀是迄無
 期限証秘有之分
 ハ公債ニ相立及
 処分候処届漏ニ
 テ于今証文所持
 ノ者ハ勘定書相
 添来ル八月十五
 日限リ其管廳ヲ

積荷

目錄通

船客

何人

右者来何月何日當

港出帆何港赴度

依之手数料幾許

上納問免状以下

渡奉願以上

何港
 何丸船長
 何雜
 年号月日

船泊改所

⑥ 積荷目錄

經テ大藏省へ可
届出若シ右期限
ニ後レ何様清實
申立候共一切採
用不相成候條此
旨布告候事
○九年七月御布
告
金穀等借用証書

ヲ其貸主ヨリ他
人ニ譲渡ス時ハ
其借主ニ証書ヲ
書換ヘシムベシ
若シ之ヲ書換ヘ
シメサルニ於テ
ハ貸主ノ譲渡証
書有之ハ仍ホ讓
渡ノ効ナキモノ

覺

一品名箇數

片量

改所印 願人印

右ノ通何ノ港ノ積廻

申度此段

年号月日

何誰印

⑦ 入港願

一船名 何丸

船形 何

積高 何程

トス此旨布告候事

但相續人へ譲渡

候ハ此限ニアラ

ス

○六年七月太政

官御布告

各地方違式註違

條例別紙ノ通被

定候條此旨布告候事

但地方ノ便宜ニ

依リ斟酌増減ノ

庶ハ警保寮へ可

伺出且條例揭示

ノ儀モ同寮ノ指

揮ヲ可受事

○違式註違條例

公用文例

船主

何所何誰

乗組

何人

積荷

目錄之通

船客

何人

右者去何月幾日何

港出帆今何月幾日當

港着船仕度ニ付船税

沖鑑札何港泊免

状並積荷目錄相添

手數料幾許碇泊

○第一條 違式

ノ罪ヲ犯ス者ハ

七十五錢ヨリ少

ナカラス百五十

錢ヨリ多カラサ

ル科料ヲ追徴ス

〔八十一年十月

改正下同シ〕

○第二條 註違

ノ罪ヲ犯ス者ハ

五錢ヨリ少ナカ

ラス七十五錢ヨ

リ多カラサル科

料ヲ追徴ス〔九年

五月改正〕

○第三條 違式

註違ノ罪ヲ犯シ

資力ナキ者及ヒ

税^{ゼイ}炭^{ツミ}許^ヲ上^ハ納^ル仕^ル所^ナ為^ス

物^{モノ}揚^{ヤウ}陸^{リク}免^メ状^{シヤウ}新^{シン}設^{セツ}

何年^{ナニトシ}月^{ツキ}日^ヒ

何^{ナニ}准^シ印^シ

何^{ナニ}港^ト 水^{スイ}造^{ゾウ}改^{カイ}所^ト

〔半^ハ〕造^{ゾウ}船^{セン}寮^{レウ}入^{ニウ}舎^{シヤ}願^{ガン}

何^{ナニ}縣^{ケン}庶^{シヨ}民^{ミン}

何^{ナニ}國^{クニ}出^デ生^{シユ} 父^フ兄^{ケイ}住^{ヂユ}居^ク

何^{ナニ}准^シ印^シ

右^{ミダリ}者^ノ造^{ゾウ}船^{セン}學^{ガク}機^キ械^{カイ}

學^{ガク}志^シ願^{ガン}付^{ツキ}所^ト試^シ験^{ケン}

上^{ウヘ}横^{ヨコ}濱^{ハマ}賀^カ造^{ゾウ}船^{セン}所^ト

科料ヲ出スヘラ	肯ンゼザル者ハ	拘留ニ処スル一	左ノ如シ(十一年	十月改正)	違式 拘留 五	日ヨリ少ナカラ	ス十日ヨリ多カ	ラス	註違 拘留 半
○第四條 違式	并ニ註違ノ罪ニ	ヨリ取上グベキ	物品ハ贖金ヲ科	スルノ外別ニ没					

二月文列

賃金^{テンシヤ}告^メオイテ寄宿修

業^テ許^ス宿^ル者^ハ減^スル

住^ス度^ハ法^ニ依^リ奉^ル願^ハ以^テ

身^ノ元^ノ引^キ替^ヘ人

住^ス度^ハ

何^レ誰^レ印

主^ト船^ノ寮^ニ在^リ中^ニ

② 教導團^{ケウダウダン}入^ル學^ビ願^ス

何^レ府^ノ下^ノ何^レ

身^ノ分^ノ何^レ誰^レ之^レ元^ノ引^キ替^ヘ人

府^ノ下^ノ何^レ不^レ寄^ル留^ス

何^レ國^ノ何^レ

軍^ノ學^ノ隊^ニ在^リ者^ハ

何^レ誰^レ

何^レ年^ノ何^レ月^ノ

右^ノ者^ハ此^ノ度^ニ教^育導^引

九十七

荒川武蔵版

救ノ申渡シヲ為
スベシ

○第五條 違式

註違ノ罪ヲ犯シ

人ニ損失ヲ蒙ラ

シムル時ハ其損

失ニ當ル贖金ヲ

出サシメ後ニ贖

金ヲ命スヘシ

○第六條 違式

ノ罪目ヲ犯スト

雖凡情狀輕キ者

ハ減等シテ註違

ノ贖金ヲ追徴シ

註違ノ罪ヲ犯ス

ト雖凡重キハ加

等シテ違式ノ贖

金ヲ追徴スヘシ

團入學奉願ト云

行狀方正之者ハ其

名間涉檢査之上

採用被下度固ヨリ

入團之上者涉規則教

重為相守可申且亦

當人身上之儀者何事

不寄私引受可仕

依而本人履歷書

添込及奉願也

公用

其犯スル極メテ

輕キハ止ダ呵責

シテ放免スル

アルベシ

違式罪目

○第七條 贗造

ノ飲食物并ニ腐

敗ノ食物ヲ知テ

販賣スル者

○第八條 (十一

年六月刪除シテ

街路取締規則ニ

追加ス

○第九條 春画

及ビ其類ノ諸器

物ヲ販賣スル者

○第十條 病牛

死牛其他病死ノ

身元引請人

身分

何誰印

何日

何誰印

教導團中

③ 家私塾開業願

カシ ジエク クロイゲケ

第一條

學校位置

何區何村
何郡何村
何番地

第二條

學校費有無

一 束脩 何一月 謝何一月 俸何一月

公用

九十九

九十九

禽獸ヲ知リテ販

賣スル者

○第十一條 身

体へ刺繡ヲナス

者

○第十二條 男

女入込ノ湯ヲ渡

世スル者

○第十三條 乘

馬ニテ猥リニ馳

驅シ又ハ馬車ヲ

疾驅シテ行人ヲ

觸倒ス者

但シ殺傷スルハ

此限ニアラス

○第十四條 旅

行免状ヲ持タザ

ル外國人ヲ私ニ

第三條

教師履歴

何

何難

第四條

學科

何

教則

何

塾則

何

右ノ通用業仕立

車願

年号月日

何難

止宿セシムルモ

ノ(十一年三月改

正)

○第十五條 外

國人ヲ私ニ雜居

セシムル者

○第十六條 夜

中無燈ノ馬車ヲ

以テ通用スル者

○第十七條 人

家調密ノ場所ニ

於テ妄リニ火技

ヲ玩ブ者

○第十八條 火

事場ニ關係ナク

シテ乘馬スル者

○第十九條 戲

ニ往來ノ常燈臺

③ 公債證書_{コウサイ} 後_シ 後_シ 後_シ

此證書是と批_シ 高_ク 亦_モ

持_ツ 之_ヲ 安_ク 貴_ク 殿_ノ 後_シ

以_テ 實_ニ 正_ニ 也

年月日 何_レ 誰_ノ 印

本文_ノ 通_リ 相_違 違_ハ 違_ハ 違_ハ

之_レ 也

何_レ 府_ノ 公債_ノ 樹

年月日 何_レ 誰_ノ 印

④ 公債證書_ノ 結_ス 願

ヲ破毀スル者

○第二十條

十一年三月刪除

○第二十一條

男女相撲并ニ蛇

遣ニ其他醜体ヲ

見世物ニ出ス者

○第二十二條

川堀下水等へ出

林瓦礫等ヲ投棄

シ流通ヲ妨グル

者

○第二十三條

通行留ノ揭示ヲ

ル道路橋梁河堀

等ヲ犯シテ通過

シタル者

十一年四月改正

私儀何府何町何誰

ヨリ別書金高ニシテ

ヲ讓受ム付向志私姓

名ニ書改被下ル者

奉願者以上

何府何町何番地

年号月日

何誰印

何地出張紙幣案

何府廳公債掛

何府何銀行

中

○第二十四條

他人ノ持場又ハ

免許ナキ場所ニ

魚藻ヲ設クル者

○第二十五條

毒藥并ニ激烈氣

物ヲ用ヒ魚鳥ヲ

捕ル者

○第二十六條

他人分ノ田水ハ

勿論組合持ノ田

水ヲ断リナク自

恣ニ我田ニ引入

ル者

○第二十七條

他人ノ持場ニ入

リ笋或ハ簞類ヲ

無断採リ去ル者

（五）目一例

此書狀中何々公債

金高千圓ヲ封入差出

申付是内金五百圓

表書通何府何

所何誰讓渡中何府

同人姓名等書改

被下殘五百圓私

姓名等書改等

上

○第二十八條

十一年三月刪除

○第二十九條

堤ヲ壊テ又ハ斷

リナク他人ノ田

園ヲ堀ル者

○第三十條

敷内ニ菜蔬豆類

ヲ植或ハ汗物ヲ

積ミ往来ヲ妨ク

ル者

○第三十一條

他村又ハ他人持

場ノ秣或ハ苗代

草等ヲ斷リナク

蒞採ル者

○第三十二條

婚姻祝儀等ノ節

何府何郡何村何番地

何誰印

何地出張所紙幣寮之

何府廳公債掛之

何府何銀行之

何中

○借家之建願

私所有者地何區何村

何番地別紙圖面

之通借家十五戸之建

仕及此假令願之也

事故ニ托シ往来

又ハ其家宅ニ妨

害ヲナス者

○第三十三條

馬夫或ハ日雇稼

ノ者等仲間ヲ結

ヒ他人ノ稼ヲ為

スニ故障スル者

○第三十四條

神佛祭事ニ托シ

人ニ妨害ヲナス

者

○第三十五條

往来ニテ死牛馬

ノ皮ヲ剥ギ肉ヲ

屠ル者

○第三十六條

他人ノ墓碑ヲ毀

何處何町何番地
何種
何種印
手号自り

⑦ フラフ 建設願

何府何區何町何番地

何誰

何誰

從來

何高景子
又至合社
又至合社
又至合社

今般目印ニ為メ

通フラフ新規建

設仕交は股車願

や

明細圖面添

損スル者

○第三十七條

官有ノ山林等ニ

禁制ノ揭示アル

ヲ犯セシ者

○第三十八條

居宅前掃除ヲ怠

リ或ハ下水ヲ浚

ハサル者

○第三十九條

御用ト書タル小

旗提燈等ヲ免許

ナク猥リニ用ル

者

○第四十條 他

人ノ繫舟ヲ無断

掉シ遊ブ者

○第四十一條

年号月日

何誰印

⑥ 損札引換願

一金何圓也

右破換五ノ通用

仕通ル旨直引替

下度奉願也

何郡何村何番地

年号月日

何誰印

⑦ 湯沼願

私儀

先年ヨリ何病お費

官有或ハ他人ノ

山林田畠ニ入り

植物ヲ損害スル

者

○第四十二條

神社佛閣ノ器物

類ヲ破毀スル者

註違罪目

○第四十三條

狹隘ノ小路ヲ馬

車ニテ馳走スル

者

○第四十四條

夜中無提燈ニテ

諸車ヲ挽キ又ハ

乗馬スル者

但陸海軍ノ諸兵

非常ノ警戒アル

大者ニ細又ニ極小

ニ多ク別ニ罪法ニ

及ニ其地温湯病

症有患ニハ醫術

何誰申聞ク付本

月何日ヨリ来何月何

日と都合何十日之間

休暇ヲ賜リ養病イ

タシ度依リ醫術何

誰證書有否中

時ハ勿論平日隊
伍ヲ俎夜陰行進
及定制アル徽章
ノ服帽着用ノ節
ハ單騎ト雖此
限ニアラス
但書八年七月改
正

○第四十五條

斟酌ナク馬車ヲ
疾驅セシメテ行
人へ迷惑ヲ掛ケ
シ者
○第四十六條
馬車及ヒ人力車
荷車等ヲ往来ニ
置キ行人ノ妨ヲ
ナシ及ヒ牛馬ヲ

奉願也

何職
官

手号目日

何誰印

病後歩行届
九

私儀去レ何月中ヨリ

何病症ヨリ引籠ル

且毎此程ヨリ漸次快

氣ニ趣キ間近傍歩

行状試申ス依テ

古届申上作也

手号目日

何誰印

街衢 = 横クへ行

人ヲ妨ケシ者

○第四十七條

禽獸ノ死スル者

或ハ汗穢ノ物ヲ

往来等へ投棄ス

ル者

○第四十八條

婦人ニテ謂レナ

ク断髮スル者

○第四十九條

荷車及ヒ人力車

行進ノ節行人ニ

迷惑ヲカケシ者

○第五十條

下掃除ノ者蓋ナ

キ糞桶ヲ以テ搬

運スル者

九 出勤届

私儀何病ニ付去レ何

日ヨリ引籠ルニ去レ何

全癒ニ付今幾ヨリ

出勤仕合ハ段取届申

トク也

何誰印

九二 辭職願

私儀去ル何月幾日

ヨリ何病氣ニ付出願

○第五十一條

旅籠屋渡世ノ者

止宿人名ヲ記載

セス或ハ之ヲ届

出サル者

○第五十二條

往来筋ノ號札又

ハ人家ノ番号名

札看板等ヲ戲ニ

破毀スル者

○第五十三條

喧嘩口論及ヒ人

ノ自由ヲ妨ケ且

警告愕スヘキ噪聞

ヲ為シ出セル者

○第五十四條

十一年四月删除

○第五十五條

不仕ノ妻逐ハレ疲勞

古増シ體ニ而者何分

奉職仕業ノ間何卒

本官ノ免シテ在野

以上

年号月日

何准印

藝妓鑑札願

何區何村何番地

何准在介

藝名

何准

私儀知少之知實父

塵忽ニヨリ人ニ

汗穢物及ヒ石礫

等ヲ抛澆セシ者

○第五十六條

田園種藝ノ路ナ

キ場ヲ通行シ又

ハ牛馬ヲ牽入ル

者

○第五十七條

牛馬ノ繫方牽方

ヲ忽セニシテ他

ノ妨害ヲナス者

○第五十八條

荷車及ヒ人力車

等ヲ並べ挽キテ

通行ヲ妨ケシ者

○第五十九條

誤テ牛馬ヲ放チ

公同規則

母トモ病死仕付右誰

方チヨ助成セイ受居ヤク合カイ成

居トモ定計トモ友

誰儀不慮アリヨ手違テヨリ

其身タイ退轉テン場合ニ

差至リ居合受居ルモ

見ルニ不ス忍且自分フ員債サイ

等モ有シ居得シ償却シヤウキヤク

目當ノモ不ア相立平素ハイソ

病身ニテ本業モ難イトナシ

人家ニ入ラシメ
シ者

○第六十條 犬

ヲ闘ハシメ及ヒ

戯ニ人ニ啖スル

者

○第六十一條

巨大ノ紙鳶ヲ揚

ケ妨害ヲナス者

○第六十二條

酔ニ乗シ又戯ニ

馬車往来ノ妨碍

ヲナス者

○第六十三條

雜魚乾場ニ妨害

ヲナス者

○第六十四條

海苔乾場ニ妨害

家モ是トテ手訓以儀付

各按員債償却者

右藝妓渡世營業仕

度依テ法規則ニ稅

金無相違相納事

萬一本入湊滿及

身元引受人親族共ニ

於テ辨納可仕戸問何

卒營業免許古鑑

札中渡被成下交

ノナス者

○第六十五條

他人ノ魚梁等ニ

妨害ヲナス者

○第六十六條

養田水其外用水

ニ妨害ヲナス者

○第六十七條

水除枕ニ妨害ヲ

ナシ又ハ之ヲ拔

取ル者

○第六十八條

他人ノ竹木ニ妨

害ヲナシ又ハ枝

葉ヲ拾取ル者

○第六十九條

他人ノ獵場ニ妨

害スル者

法假一同連印ヲ以テ

以上

手号月日

右

何准印

何准

子文リ人

何准印

⑨ 頓死届

私父何准儀本日午

前第八時頃朝飯

ヲ喫^{キツ}及^ニ儀^ニ死^シ生^レ信^ト

全^{マツ}卒^{タク}中^{ソツ}風^クお^チ敷^ウ及^ブ儀^ウ

儀^ニ奉^ル存^ト依^ル之^ニ儀^ト

○第七十條 他

人ノ植籬牆垣ヲ

損害スル者

○第七十一條

渡船ニテ不當ノ

賃錢ヲ取り或ハ

等閑ニ行人ヲ待

タシノ用便ヲ妨

グル者

○第七十二條

往還ノ並木及ヒ

苗木ヲ徒ニ害ス

ル者

○第七十三條

渡舟橋梁ノ賃錢

ヲ不拂シテ去ル

モノ

○第七十四條

右届申上ノ也

何郡何村何番地

族平民

何誰印

年号月日

⑤ 變死届

何郡何村何番地

何誰 父子兄弟 姉妹及介

何誰

何年月

右ノ者ノ變死ノ狂氣ニ至ル

付家族ニ注意保護

致居タルニ昨歲春生

熟眠ノ際竊ニ住居湯

誤テ牛馬ヲ放チ

他人ノ田圃及ヒ

物品ヲ損害スル

者

○第七十五條

猥リニ他人ノ争

論ニ荷擔スル者

○第七十六條

行人ニ合カ等ヲ

申掛ル者

○第七十七條

牧場外猥リニ牛

馬ヲ放チ飼スル

者

○第七十八條

他人ノ獸畜類等

ニ犬ヲ啖シ掛ル

者

物置小屋^{モノオキ}至^ニ自^シ經^ル後^ト

間^ニ不^レ放^チ散^ル後^ト由^リ

申^ス上^ニ也

年^ノ月^日何^ノ誰^ノ印

○九^六古^ク預^リ人^ノ請^フ書^ト

何^ノ縣^ノ何^ノ郡^ノ何^ノ村^ノ何^ノ番^ノ地^ト
族^ノ平^ノ民^ト

何^ノ誰^ノ

右^ノ者^ト汚^レ乳^ト中^ニ依^リ預^ル私^ト

古^ク預^リ被^リ仰^ル付^キ等^ノ知^ル事^ト由^リ

然^ル上^ニ者^ト濟^ル用^ニ之^キ事^ト何^ト

○第七十九條

他人ノ墳墓等ノ

供品類ヲ猥リニ

毀損スル者

○第八十條 水

車水碓等ニ妨害

ヲナス者

○第八十一條

行人ニ強テ車馬

駕籠等ヲ勸メ過

言ヲ申掛ル者

○第八十二條

他人ノ曝網ニ妨

害ヲナス者

○第八十三條

他人ノ海苔柵内

へ断リナク舟ヲ

棹シ入ル者

時ニ而モ速ニ召連出頭

可致ト依テ為ル車馬

請書如件

何區何村何番地

何誰印

○右引渡人請書

何縣何區何村何番地

族平民

何誰

右之者ニ調濟ニ上私

引渡相成山ニ引

取ル依テ受書如件

○第八十四條

山林原野ニテ徒

ラニ火ヲ焚者

○第八十五條

總テノ標柱ニ牛

馬ヲ繫キ或ハ破

毀スル者

○第八十六條

橋柱ニ舟筏ヲ繫

ク者

○第八十七條

神祠佛堂又ハ他

人ノ垣壁等ニ樂

書ヲナス者

○第八十八條

田畝中ニ瓦礫竹

木等ヲ投入ル者

○第八十九條

何郡何村何番地

年号日

何誰印

サレインモノ
○差入物願

何府何郡何村何番地

何誰

一何品 何程

一何品 何程

ノ何程

右者何府何村何番地

何誰申者差入物願

度片間此段河内濟

被成下度此段奉願

遊園及ヒ路傍ノ

花木ヲ折リ或ハ

植物ヲ害スル者

○第九十條 往

來並木ノ枝ニ古

草鞋等ヲ投掛ル

者

註違罪目追加

○第五十九條

禁制ノ場所ニテ

竹木ヲ伐リ魚鳥

ヲ捕ル者

○第六十條 道

路又ハ人家ニ於

テ強テ合カヲ申

掛ケ或ハ押賣ス

ル者

○第六十一條

ノ也

年号自口

右

何雜印

貯金預願

私儀節儉之餘金

何地郵便活役所ヲ

經る所察へ追て預り

相願申度右活開届

相成片上者總て規

則相導シタガ可申此

股奉願片也

神佛祭禮ノ節世

話人等強テ出費

ヲ促ス者

○第六十二條

男ニシテ化粧シ

女ニシテ男粧シ

或ハ奇怪ノ扮飾

ヲナシテ醜体ヲ

露ハス者

但シ俳優歌舞妓

等ハ勿論女ノ着

袴スル類ハ此限

ニアラス

○第六十三條

牛馬其他諸獸ノ

斃レタルモノ

皮ヲ定マリタル

場所外ニ於テ剥

年号月日

何誰印

驛通頭殿

前書何誰ヨリ奉

願片通相達云云唐片

右付萬一不都合

出来片了私引請

可仕為後禮片

何府何區何所何處

族平民

何誰印

百上申書

取ル者

○第六十四條

猥リニ筏ヲ橋梁

又ハ杭木ニ繫キ

或ハ通航ノ妨害

トナルヘキ処ニ

泊スル者

○第六十五條

牛乳攪取人心得

規則ニ違背スル

者

○第六十六條

制限ニ背キタル

筏ニテ川筋ヲ往

来スル者

○第六十七條

官林官園及ヒ公

園等ニ揭示セル

何縣府何郡何村何番地

族平民

何誰父子

何誰

何年月

右之者文章相應

出来且簿記法熟達

何課者尤適任

之材者河津採

用相成度此般

候也

年月日

何誰印

禁條ヲ犯ス者○第六十八條豚肉營業規則ニ違背スル者○
第六十九條傳染豫防ニ關スル諸定規ニ違背スル者○第七
十二條菓子其他ノ物品ヲ賭シ營業ヲナスモノ○第七十三條
神社佛閣又ハ他人ノ家屋牆壁等ハ樂書及ヒ張札ヲナス者

改正
增補
公用文例終

明治十二年六月三日版權免許
今 稔九月十五日成了發兌

日本橋數寄屋町一番地
東京平民

編兼筆者
卷
菱
潭

今 馬喰町二丁目九番地

出板者
今
荒川藤兵衛



卷斐潭先生編并書



改正
增補

公用文例

頭書諸規則

明治十二年
九月再刻

荒川藤兵衛藏版

